

事業報告書

平成19年度

(平成19年4月1日～平成20年3月31日)

学校法人 慈恵大学

目 次

以下の各目次をクリックすると、該当ページへ移動することが可能です。

I. 学校法人慈恵大学	
1. 慈恵大学行動憲章	1
2. 慈恵大学行動規範	2
3. 平成19年度事業報告	4
4. 平成19年度決算書	12
5. 学校法人慈恵大学の体制	18
1) 学校法人慈恵大学	18
2) 東京慈恵会医科大学	18
3) 看護専門学校	18
6. 学校法人慈恵大学組織図	19
7. 理事会	20
8. 評議員会	24
9. 監査室	24
II. 東京慈恵会医科大学	
1. 教授、その他の人事	27
1) 平成20年3月31日退任教授	27
2) 新任教授	27
3) 新任客員教授	28
4) 特任教授	28
2. 教職員数	29
1) 教員数（医学科・看護学科）	29
2) 初期臨床研修医数	29
3) 職員数（看護師を含む）	29
4) 看護師数	29
3. 教 育	30
1) 医学部医学科学学生数など	30
2) 医学部看護学科学学生数など	30
3) 大学院学生数	31
4) 看護専門学校学生数	31
5) 大学および大学院の現状	31
(1) 医 学 科	31
(2) 看護学科	36
(3) 大 学 院	37
(4) 卒後臨床研修	38
(5) 生涯学習センター	40

4. 研 究	41
1) 教育研究助成委員会など	41
2) 総合医科学研究センター	41
5. 診 療	45
1) 病院概況	45
(1) 本 院	45
(2) 青戸病院	50
(3) 第三病院	52
(4) 柏 病 院	53
(5) 総合健診・予防医学センター	55
(6) 病床数および外来患者数	56
6. 学術情報センター	60
7. 教育センター	62
8. その他	66
1) 成 医 会	66
2) 各種行事	67
3) 印刷物等の発行	67
〔付〕	
1. 中期目標・中期計画・平成20年度事業計画	69

I. 学校法人慈惠大学

1. 慈恵大学 行動憲章

H16. 9. 24 制定

H17. 2. 24 改正

慈恵大学は、創立以来築いてきた独自の校風を継承し、社会に貢献するため、建学の精神に基づいた行動憲章を定めます。

全教職員は本憲章を遵守し、本学の行動規範に従い社会的良識をもって行動します。大学役員は率先垂範し、本憲章を全学に周知徹底します。

1. 全人的な医療を実践できる医療人の育成を目指します。
2. 安全性に十分配慮した医療を提供し、社会の信頼に応えます。
3. 規則を守り、医の倫理に配慮して研究を推進し、医学と医療の発展に貢献します。
4. グローバルな視野に立ち、人類の健康と福祉に貢献します。
5. 情報を積極的に開示して、社会とのコミュニケーションに努めます。
6. 環境問題に十分配慮して、教育、診療、研究を推進します。
7. お互いの人格と個性を尊重し、それぞれの能力が十分に発揮できる環境の整備に努めます。

この憲章に反するような事態が発生したときには、大学は法令、学内規則・規程に従って真摯に対処し、社会に対して的確な情報の公開と説明責任を果たし、速やかに原因の究明と再発防止に努めます。また、本学の就業規則に則り役員を含めて厳正に処分します。

2. 慈恵大学 行動規範

H17. 3. 24制定

(目的)

第1条 慈恵大学（以下「大学」という）が社会から信頼される大学となるために、本学に勤務する教職員すべてが、業務を遂行するにあたり、また個人として行動する上で遵守すべき基本的事項を明記した行動規範を定める。

(基本理念)

第2条 東京慈恵会医科大学の建学の精神、行動憲章および附属病院の理念・基本方針を日々の行動規範とする。

【建学の精神】

「病気を診ずして 病人を診よ」

私たちは病気そのものの診断と治療だけでなく、病を持っている人の心をよく理解し、不安や悩みなどを取り除き、つねに患者さんにとって最適かつ、最良の医療を提供することを第一とする。

また、病める人の心の痛みに共感することができる「医の心」を持つ医師、および「看護の心」を持つ看護師の養成を目指す。

【病院の理念】

- ・患者さんの立場に立った医療を実践する
- ・最高かつ最善の医療を提供する
- ・良き医療人を育成する

【病院の基本方針】

- ・患者さんを中心とした医療を実践する
- ・安全かつ質の高い医療を提供する
- ・心ある医療従事者を育成する
- ・病院内外の医療従事者のために、広く教育・研修の場を提供する
- ・質の高い先進的な臨床医学研究を推進する
- ・他の医療機関との連携を推進し、地域と密着した総合的医療サービスを実践して社会に貢献する

(法令の遵守)

第3条 本学の教職員は法令、学内規程などの規則を厳守し、「良き市民」として社会的良識をもって行動しなければならない。

(人間の尊重)

第4条 全ての人々の人格・人権やプライバシーを尊重し、いわれなき差別、セクシャルハラスメント、パワーハラスメントなどの行為を行ってはならない。

(取引業者との関係)

第5条 取引業者との取引に際しては、公正・公明かつ自由な競争を心がけ、職位を濫用して不利益をもたらしてはならない。また、不正な手段や不透明な行為によって利益を追求してはならない。

(反社会的勢力との関係)

第6条 社会秩序に脅威を与える団体や個人に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断する。なお、患者対応についてはこの限りではない。

(過剰な接待接受の禁止)

第7条 正常な取引関係（患者関係含む）に影響を与えるような過剰な接待、または贈答の接受を禁止する。

(環境保護)

第8条 資源・エネルギーの節約、廃棄物の減少、リサイクルの促進などに努め、限りある資源を大

切にするとともに、環境問題に配慮して行動するよう努めなければならない。

(公私の区別)

第9条 公私の区別をわきまえ、大学の定める規則等に従い、清廉かつ誠実に職務を遂行しなければならない。

(日常の業務処理)

第10条 業務上知り得た情報や文書などは、業務目的以外に使用したり、漏洩してはならない。また、個人情報を含めた秘密の情報や文書などを厳重に管理しなければならない。

2. 法令および就業規則などに基づき、常に災害の防止と衛生の向上に努めなければならない。
3. 大学の財産を私的、不正または不当な目的に利用してはならない。
4. 会計処理にあたって、不透明、不透明な処理を行ってはならない。

(虚偽の報告・隠蔽)

第11条 学内はもとより学外に対して、虚偽の報告をしたり事実を不正に隠蔽してはならない。

(教育・指導)

第12条 各職位にある者は、自ら本規範を遵守するとともに、所属教職員が本規範を遵守するように、適切な教育と指導監督する責任を負う。

(告発)

第13条 教職員または取引業者は、この行動規範に違反するような事実を確認した場合は、提案（告発）窓口にて提案することができる。

2. 提案者（告発者）については、氏名秘匿などプライバシーを保護する。

(監査・報告)

第14条 監査室長は、本規範の遵守状況について監査し、監査結果を理事長に報告する。

(違反の処理)

第15条 教職員が本規範に違反した場合は、事実関係を慎重かつ厳正に調査の上、就業規則に則り懲戒する。

附 則 1. 本規範は、平成17年4月1日から実施する。

2. 各職位は、取引業者等に対して本規範の趣旨に従い行動するよう指導するものとする。

3. 平成19年度 事業報告

理事長 栗原 敏

I. 平成19年度の事業概要

平成19年度の事業計画は、「質の高い医療人の育成」「医学・医療の開拓」「法令遵守の徹底」「医療安全の推進」「財政基盤の確立」を基本方針とした。

1. 質の高い医療人の育成に関する概要

質の高い医科大学と附属病院を目指して、卒前教育カリキュラムの改善、医師臨床研修プログラムの改善、臨床研究の振興、特色ある先進的医療の推進を行った。特に、卒前臨床教育の改善が進捗した。また、引き続き4附属病院の機能分化と特色化を検討した。特に、青戸病院のリニューアルを視野に入れて、青戸病院のコンセプトを明確にした。

2. 医学・医療の開拓に関する概要

血管外科、血管内治療、前立腺癌小線源治療、鏡視下手術など特色ある診療を実践した。医学研究科として研究推進費を設け学内公募をし、医療を支える医学研究の振興を図った。DNA医学研究所内にプロジェクト研究部を設置し、若手の特色ある研究を支援する体制を作った。また、寄附講座（ライソゾーム病研究講座）を設置して、遺伝病に関する研究を推進し、寄附講座の道を拓いた。

3. 法令遵守の徹底に関する概要

教職員を対象に、行動憲章、行動規範の周知度をアンケート調査した。その結果を受けて周知策を検討した。

4. 医療安全の推進に関する概要

医療安全の推進とともに院内感染対策を充実させるために医療安全管理部を設置し、医療安全推進室と感染対策室で構成する体制とした。リスクマネジメントシンポジウムと医療安全に関するワークショップを引き続き4附属病院で開催した。システム工学の手法を用いた医療安全システムの検討を継続的に行った。

5. 財政基盤の確立に関する概要

医療収支向上のため、病院機能の改善を図った。患者支援・病診連携センターの機能を充実させ、患者のアクセスを改善した。学内横断的タスクフォースの活動を拡大して、効率のよい病院運営と、コスト意識を高め経費削減を図った。慈恵実業への業務委託を推進した。

II. 法人運営に関する報告

1. 法令遵守の徹底

- 1) 内部監査室が行動憲章・行動規範の周知度を、教職員を対象としてアンケート調査した結果、周知度は約60%であった。イントラネットなどだけでなく紙媒体を利用した周知法も有効であることが分かり、今後も定期的に広報活動を行うことにした。
- 2) 公益通報制度を有効に利用するようにイントラネットなどを利用して周知させた。通報に対しては調査委員会を設置して対処した。
- 3) 文部省科学研究費、厚生労働省科学研究費を対象として研究費の使用状況を内部監査室で継続的に監査した。平成20年2月に会計検査院の検査を受けたが、大きな指摘事項はなかった。
- 4) 診療・研究から得られた個人情報の取扱い・管理方法を周知徹底するとともに、オールユーザーメール、配布物、講習会など定期的な教育を行った。また、セキュリティーUSBを学内でも廉価で入手できるようにした。

2. 財政基盤の確立

- 1) 各部署における業務の見直しと改善を図り、職員数の適正化に取り組み、人件費の削減を目指した。また、所定労働時間を見直した。

- 2) 学内横断的タスクフォース活動を推進し、病院運営の実態を分析し、医療材料費の削減と人件費の増加抑制を図ったが、医療収入の増加に伴い人件費や諸経費比率が増加したため、詳細な原因分析が必要である。
- 3) 平成19年度の帰属収支差額は25億円（第三病院の道路用地売却収入を除く実質ベース14億4千万円）で、目標額8億円を達成した。

3. 人材育成・教育制度の構築

- 1) 人材育成のための様々な職員教育・研修制度の検討を行った。具体的には平成20年度に実施する予定である。
- 2) 教員評価システムの稼動による効率的な教員・医師人事制度の実現、および体系的な教員人事評価制度の検討を進めるため、教員評価システムのトライアルを行った。評価システムはほぼ完成しており、20年度に具体的な運用方法を検討し実施する。教員評価システムの稼動による効率的な教員・医師人事制度の実現、および体系的な教職員人事評価制度の検討を進める。

4. 広報活動の充実

- 1) 広報部門の充実を図り、本学の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献などの情報）イントラネットと掲示を利用して、学内に周知した。広報掲示板（慈恵トピックス）は西新橋校だけでなく、国領校、青戸病院、第三病院、柏病院にも掲示して情報の共有を図った。また、マスコミ取材に対しては広報推進室を中心に積極的に対応した。
- 2) 問題が発生したときに速やかに対応できるように、広報課が各附属病院の担当部署と速やかに連絡を取り、取材などに対応できるようにした。また、教職員に対して適切な情報開示を行った。

5. 青戸病院リニューアルプロジェクトの推進

- 1) 医療人育成と良質の医療を実践するため、青戸病院リニューアル・タスクフォースと青戸病院リニューアル委員会を設置し、リニューアル計画を具体的に検討した。患者を総合的に診る医療体制を構築するために、青戸病院総合内科を設置した。青戸病院総合内科は、本学卒前教育、卒後教育の中で総合的診療能力の涵養の場として機能することが期待されている。
- 2) 青戸病院リニューアル計画について、葛飾区にコンセプトと地域中核病院としての診療体制について説明し理解を求め、区議会で総合的な同意を得た。
- 3) 青戸病院リニューアル計画について教授会議、理事会、評議員会に報告し了承を得た。また、青戸病院リニューアル委員会を立ち上げ、建築に関する具体的事項について検討した。設計事務所を選定し、理事会の承認を得て決定した。リニューアル委員会で基本設計の検討を開始した。

6. 本院外来棟建築計画に向けた準備

- 1) 本院外来棟の建築に向けて大学マスタープラン検討会を立ち上げ、西新橋キャンパス全体を視野に入れた将来計画の検討を開始した。
- 2) 本院外来棟建築計画に向けて、4附属病院の機能分化、特色化について継続検討した。

7. 大規模災害発生時の危機管理体制の整備

- 1) 全学的な大規模災害対策指針の周知と大規模災害発生を想定した4機関の連携・支援体制を確立するため、各機関別に教職員が自宅から徒歩でそれぞれの機関に到達する時間などの調査を行った。また、全学防災委員会、各機関の防災委員会の関係と連絡網を明確にし、防災マニュアルを作成した。
- 2) 4機関で防災マニュアルを作成して、実施体制を確認した。

8. IT化の推進

- 1) 附属病院オーダリングシステムの第一期は特に大きなトラブルがなく順調に稼動した。第二期は予定していた項目の一部が翌年に持ち越しとなった。また、医事会計システムの更新は予定より遅れている。

Ⅲ. 教育・研究に関する報告

1. 特色ある教育・研究の推進

- 1) 医学科カリキュラムの点検・評価を開始した。特に臨床教育の充実を目指して、5年生の臨床実習を36週から40週に延長することにした。また、医師国家試験合格率向上を視野に入れて、臨床系の試験に国家試験の問題を採り入れることにした。卒業試験についても見直しをおこなった。看護学科では平成21年度カリキュラム改訂に向けて検討を開始した。
- 2) 教育センターの支援を受けて、医学教育、看護教育、卒後臨床研修、専門習得コースの改善・充実に取組んだ。
- 3) E-learningを導入し、医学科と看護学科のシラバスを電子化して、イントラネットで公開した。
- 4) 4附属病院を活用した多様な看護師育成プログラムの検討を開始した。
- 5) 大学院改革を継続的に推進し、学位論文審査は学位論文(Thesis)を使って公開審査とした。大学院生を増やすため社会人入学制度を開始した。また、大学院の研究を活性化するため大学院研究推進費を新設した。
- 6) 大学院医学研究科看護学専攻修士課程設置に向け設置準備室が中心となって準備を進めており、当初の計画通り平成20年5月に申請する予定である。
- 7) 特色ある教育・研究を推進するため、学外研究資金の獲得や導入に積極的に取り組んだ。教育センターが中心となって申請の準備をした2つのプログラムが文部科学省に採択された。
 - ① 平成19年度地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム「プライマリケア現場の臨床研究者の育成」
 - ② 平成19年度特色ある大学教育支援プログラム「地域の教育力を活かす医療者教育」科学研究費補助金の獲得を目指して研究支援課の支援体制を強化した。寄付講座を設置した(ライソゾーム病研究講座)。
- 8) グローバルCOEへの応募には学内の研究体制の整備が必要と考え、応募を断念した。
- 9) 講座の再編について検討し、解剖学講座は一講座2教授制、薬理学講座1、2は統合し薬理学講座とした。また、基礎系講座の名称を変更しナンバー講座名を廃止した。

2. 卒後教育の充実・改善

- 1) 専門修得コースプログラムを検討し、ホームページ上に公開することを決めた。
- 2) 生涯学習センター活動として月例セミナー、夏季セミナーを開催した。
- 3) 看護師の再教育システムについて検討を開始した。
- 4) 教育センターが中心となって、大学基準協会の「医学教育に関する基準」を検証した。

3. 入学試験の改善

- 1) 医学科の入学試験を点検・評価した。学納金の減額を検討したが据え置くことにし、初年度納入金を減額することにした。
- 2) 看護学科の入学試験応募者数を増やすため高校訪問、予備校の大学説明会に積極的に参加し成果をあげた。また、オープンキャンパスを受験生に親しみやすいように改善した。入試検討会で引き続き、入試科目などについて検討することにした。

4. 大学間の連携の継続的検討

- 1) 首都大学東京との連携を推進し、単位互換の協定を結んだ。

IV. 診療に関する報告

1. 医療安全管理の推進

- 1) 医療安全管理部を設置し、4 附属病院の医療安全と感染対策について連携を強化した。
- 2) 4 附属病院の医療安全管理体制の点検評価と事故などへの迅速対応体制を確立し、医療事故が発生した時には、医療安全管理部が統括し広報と連携しながら対応することとした。
- 3) 医療安全管理に関するワークショップ、シンポジウム、医療安全週間を継続して開催した。
- 4) 附属病院長が代表者となり、私立医科大学協会加盟大学の医療安全連携体制を構築した。
- 5) 医療の質と技術の向上のため鏡視下トレーニングコースを引き続き開催した。
- 6) 東京大学、早稲田大学のシステム工学の専門家と医療安全管理部が連携して医療安全管理体制についての研究を継続して行った。

2. 医療の質の向上

- 1) 鏡視下手術トレーニングコースの STEP1～STEP3まで実施した。今後も継続して開催する。
- 2) がん薬物療法を科学的、客観的に検討する審議機関として「癌治療運営連絡会議」を設置した。レジメン登録、がん拠点病院としての整備等、診療科へのサポートや教育的側面を担う組織である。

3. 先進医療の推進

- 1) 患者のニーズに応えるため血管外科、血管内治療、胸腔鏡視下手術、前立腺癌小線源治療などの先進医療に積極的に取り組んだ。
- 2) 血管外科、胸腔鏡視下手術のライブ手術を行い啓蒙に努めた。

4. 患者サービス・病診連携の推進

- 1) 患者サービス・病診連携センターの機能を充実させ、病診連携の強化と病床利用の効率化を図り、患者が病院にアクセスしやすい環境を整備した。
- 2) 診療体制と病院環境の整備を行い患者満足度の向上を図った。救急部の患者受け入れ態勢を改善した。
- 3) ホームページなどを利用して医療情報を積極的に発信した。マスコミの取材に誠意を持って対応した。本学の医療がマスコミ報道される時には、イントラネットを使い学内に周知させた。
- 4) 各附属病院が積極的に市民公開講座を開催して、啓蒙と病院紹介を行った。

5. 効率的な医療の推進

- 1) 平成20年度に青戸病院、第三病院、柏病院に DPC を導入するため事前準備に取り組んだが、医事会計システム更新の遅れにより、導入が若干遅れることになった。
- 2) DPC に対応しクリニカルパスの普及に努め、効率的な医療を提供できるように準備した。
- 3) 附属病院のオーダリングシステムについて第一期分は特に大きな問題がなく順調に稼動した。第二期分は予定していた項目の一部を20年度に延期した。
- 4) 医師、看護師、コメディカルの業務分担の見直しを開始した。
- 5) 学内横断的タスクフォース活動を4 附属病院に拡大させ、慈恵グループ全体の医療の効率化、クリニカルパスの推進、医療材料費の削減などを目指した。

6. 予防医学の推進

- 1) 総合健診・予防医学センターが中心となって、各附属病院と連携を取りながら健診業務を見直し、向上を図った。
- 2) スポーツクリニックとスポーツ医学を再興させるために検討会を開催し、従来のアスリート

を主体にした診療ではなく、一般人も対象とすることにした。スポーツクリニックはスポーツ・ウェルネスクリニックと名称変更して整形外科学講座が管轄することにした。

7. 森田療法センターの開設

1) 第三病院に森田療法センターを開設し、本学の特色ある医療として全国に広報した。

8. 4 附属病院の救急診療のあり方と本院のバックアップ体制について検討を開始した。

V. 19年度の主な事業計画（建設工事）

1. 法人事務局

- ① 大学本館 1 階理事室整備工事（平成19年 6 月完了）
- ② 高木会館 5 階 B 会議室拡張工事（平成20年 2 月完了）
- ③ 外来棟（旧 C 棟） 6 階旧666号室改修工事（平成20年 3 月完了）
- ④ 大学本館後棟 1 階企画課跡へのコンビニエンスストア出店に伴う旧 6 C 病棟内の一部改修工事及び渉外室・医療広報室移設工事（平成20年 1 月完了）
- ⑤ 高木会館地下 1 階ベーカリーカフェ出店改修工事（平成20年 1 月オープン：経費は慈恵実業負担）
- ⑥ 大学本館後棟 1 階コンビニエンスストア（ローソン）出店工事（平成20年 3 月オープン：経費は慈恵実業負担）

2. 西新橋校

- ① 主任教授室整備工事
 - ・高木会館 7 階主任教授室 1 室（呼吸器外科）整備工事（平成19年 7 月完了）
 - ・高木会館 6 階主任教授室 2 室（眼科、消化器肝臓内科）整備工事（平成19年 8 月完了）
 - ・高木会館 6 階リハビリテーション医学講座主任教授室設置工事（平成19年 9 月完了）
- ② 大学本館後棟 2 階解剖学講座研究室並びに実験室他改修工事（平成19年10月完了）
- ③ 大学 2 号館整備工事（第 4 期：外壁タイル補修工事）（平成20年 3 月完了）
- ④ 大学 1 号館屋上スクラバー整備工事（平成20年 3 月完了）
- ⑤ 研究費補助金による研究機器設置に伴う附帯設備工事
 - ・高次元医療画像工学研究所動物実験室画像表示アーム設置工事（平成19年 4 月完了）
 - ・高次元医用画像工学研究所リフト設置工事（平成20年 2 月完了）

3. 国領校

- ① 本館 1 階学生ロッカー室改修工事（平成20年 3 月完了）

4. 看護学科

- ① 看護学科スタディールーム、女子学生ロッカー室改修工事（平成20年 3 月完了）

5. 本院

- ① システム関連工事
 - ・オーダリングシステム導入に伴うネットワーク工事（平成19年 4 月末完了）
 - ・E 棟地下 2 階電算機械室 UPS 電源増設工事（平成19年 6 月完了）
 - ・外来棟カルテ管理システム改修工事（平成19年 5 月完了）
 - ・PACS/RIS 用ネットワーク工事（平成19年 6 月完了）
 - ・院内各部署オーダー系 LAN 増設工事（平成19年10月完了）
- ② 外来整備工事
 - ・内視鏡部改修工事（平成19年 5 月完了）

- ・腫瘍・血液内科・麻酔部外来改修工事（平成19年6月完了）
- ・ウイメンズクリニック新設工事（トイレ他改修工事含む）（平成19年7月完了）
- ・外来棟2階内科B・C外来改修、仮トレッドミル検査室新設工事（平成19年11月完了）
- ・外来棟地下1階心臓外科外来および2階治験管理室、トレッドミル検査・心エコー室、精神神経科外来改修工事（平成20年3月完了）
- ③ 血管撮影装置設置に伴う中央棟3階手術部OR-1改修工事（平成19年5月完了）
- ④ 外来棟中央カルテ室防犯カメラ設置工事（平成19年5月完了）
- ⑤ グリーン・カウンター設置工事（平成19年4月～5月施工）
- ⑥ 外来棟読影室他整備工事（その2：設備工事）（平成19年6月完了）
- ⑦ 中央棟2階読影室改修工事（平成19年7月完了）
- ⑧ 外来棟中央階段手摺改修工事（平成19年7月完了）
- ⑨ 外来棟地下1階第1リニアック並びに第2リニアック待合室空調新設工事（平成19年7月完了）
- ⑩ 外来棟玄関脇車路整備工事（平成19年10月完了）
- ⑪ NICU3床増床に伴う改修工事（平成19年10月施工）
- ⑫ E棟地下1階当直室移転に伴う1階会議室改修工事（平成19年11月完了）
- ⑬ 中央棟外来者用多段式立体駐車場設備修理整備工事（平成20年2月完了）
- ⑭ 総合健診・予防医学センター内器材庫及び内視鏡検査室、婦人科検査室改修工事（平成20年3月完了）
- ⑮ 中央棟CVCF室UPS整備工事（電池交換含む）（平成20年3月完了）
- ⑯ E棟地下2階電気室特高中央監視設備用UPS装置整備工事（電池交換含む）（平成20年3月完了）
- ⑰ 中央材料室超音波洗浄機増設・更新に伴う附帯設備工事（平成19年12月～平成20年2月施工）
- ⑱ 医療用ガス設備整備工事（平成20年1月～2月実施）

6. 青戸

- ① ナースコールポケット交換工事（平成19年5月完了）

7. 第三病院

- ① 森田センター改修工事（平成19年4月完了）
- ② 本館屋上外壁防水・塗装工事（第1期工事）（平成20年3月完了）
- ③ 本館ボイラ更新工事（第1期）（平成20年3月完了）
- ④ 2号館内科医局・研究室跡改修工事（平成19年11月完了）
- ⑤ 2号館廊下天井改修工事（平成20年3月完了）
- ⑥ 本館病室整備工事（第2期）（平成20年1月完了）
- ⑦ 本館病室ファンコイル取替工事（第4期）（平成20年3月完了）
- ⑧ 治験管理室改修工事（平成19年4月完了）
- ⑨ 本館病棟系統冷却水ポンプ取替工事（平成19年4月完了）
- ⑩ 手術室HEPAフィルター取替工事（平成19年7月完了）
- ⑪ 7A病棟一般個室壁クロス貼替修理工事（平成19年8月完了）
- ⑫ 本館3階・手術棟3階手術部HEPAフィルター取替工事（平成19年9月完了）
- ⑬ 中央棟暖房用熱交換器取替工事（平成19年11月完了）
- ⑭ 3Aトイレ和式便器改修工事（平成19年11月完了）
- ⑮ 小児科外来天井雨漏れ修理工事（平成20年1月完了）
- ⑯ 本館冷温水発生機外装カバー内部清掃、保温修理他工事（平成20年1月完了）
- ⑰ 本館避雷針取替工事（平成20年3月完了）

- ⑱ メタボリックシンドローム・ドック並びに控室設置工事（平成20年3月完了）
- ⑲ 本館4B病棟、5B病棟、救急室便器消毒器取替工事（平成20年3月完了）
- ⑳ 準個室ユニット導入工事（平成20年3月完了）

8. 柏病院

- ① バス停部路面アスファルト補修（平成19年4月完了）
- ② 病棟便器消毒器（ベッドパンウォッシャー）更新（平成19年4月完了）
- ③ AB棟病室カーテンレール設置変更（平成19年5月完了）
- ④ 栄養部厨房改修工事（電気室改修含む）（平成19年7月完了）
- ⑤ AB棟ナースステーション準備室室内整備（平成19年8月完了）
- ⑥ 病棟フロー空調設備更新（平成19年10月完了）
- ⑦ 病棟ファンコイル更新（平成19年10月完了）
- ⑧ 6AB病棟個室整備（平成19年12月完了）
- ⑨ 診療棟予備室用途変更に伴う改修（平成20年1月完了）
- ⑩ 洗面台自動水洗設置（平成20年1月完了）
- ⑪ 空調設備用ポンプ類インバータ導入工事（平成20年3月完了）

4. 平成19年度決算書

1) 平成19年度資金収支計算書

自 平成19年4月1日 至 平成20年3月31日

(単位：円)

支 出 の 部		収 入 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
人件費支出	35,555,040,615	学生生徒納付金収入	2,751,860,000
教育研究経費支出	34,312,816,889	手数料収入	162,310,200
教育研究費支出	10,744,020,652	寄付金収入	1,021,593,423
医療経費支出	23,568,796,237	補助金収入	3,767,828,860
管理経費支出	2,916,734,566	資産運用収入	243,516,660
		資産売却収入	469,357,626
		事業収入	70,223,530,944
借入金支払利息支出	384,008,712	医療収入	69,508,477,077
借入金返済支出	3,119,275,000	雑収入	1,559,524,684
施設関係支出	1,010,137,714	借入金収入	1,900,000,000
設備関係支出	1,623,284,034	前受金収入	735,060,645
資産運用支出	2,798,055,234	その他の収入	12,372,593,263
その他支出	11,114,112,887		
資金支出調整勘定	-11,229,611,434	資金収入調整勘定	-12,846,117,030
期末未払金	-11,128,273,564	期末未収入金	-12,216,954,522
長期未払金	-101,337,870	前期末前受金	-629,162,508
次年度繰越支払資金	33,437,768,003	前年度繰越支払資金	32,680,562,945
支出の部合計	115,041,622,220	収入の部合計	115,041,622,220

平成20年6月文部科学省へ提出

2) 平成19年度消費収支計算書

自 平成19年 4 月 1 日 至 平成20年 3 月31日

(単位：円)

消費支出の部		消費収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費	35,174,836,763	学生生徒納付金	2,751,860,000
教育研究経費	38,701,655,558	手数料	162,310,200
教育研究経費	13,825,725,761	寄付金	1,033,651,686
医療経費	24,875,929,797	補助金	3,767,828,860
管理経費	3,334,067,951	国庫補助金	3,622,867,000
借入金利息	384,008,712	資産運用収入	243,516,660
資産処分差額	34,364,267	資産売却差額	469,191,069
徴収不能額	78,271,849	事業収入	70,223,530,944
徴収不能引当金繰入額	234,971,577	医療収入	69,508,477,077
合計	77,942,176,677	雑収入	1,795,738,083
消費支出の部合計	77,942,176,677	(うち徴収不能引当金戻入額)	(236,213,399)
消費支出超過額	-626,275,968	合計	80,447,627,502
合計	77,315,900,709	帰属収入の部合計	80,447,627,502
		基本金組入額合計	-3,131,726,793
		合計	77,315,900,709

平成20年 6 月文部科学省へ提出

3) 平成19年度貸借対照表
平成20年3月31日現在

(単位：円)

資 産 の 部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固 定 資 産	96,261,688,431	96,656,911,298	- 395,222,867
有 形 固 定 資 産	89,373,284,831	91,568,507,698	- 2,195,222,867
土 地	6,331,229,667	6,331,396,224	- 166,557
建 物	68,065,167,199	69,492,749,173	- 1,427,581,974
構 築 物	261,446,668	269,056,442	- 7,609,774
教育研究用機器備品	8,674,886,871	9,148,973,946	- 474,087,075
その他の機器備品	3,059,986,675	3,482,618,852	- 422,632,177
図 書	2,653,785,568	2,611,052,447	42,733,121
車 輜	472,150	1,314,881	- 842,731
建設仮勘定	303,148,125	208,183,825	94,964,300
放射性同位元素	23,161,908	23,161,908	0
その他の固定資産	6,888,403,600	5,088,403,600	1,800,000,000
差入保証金	358,403,600	358,403,600	0
有 価 証 券	2,530,000,000	2,530,000,000	0
退職給与引当特定預金	1,600,000,000	1,000,000,000	600,000,000
青戸病院建築引当特定資金	2,400,000,000	1,200,000,000	1,200,000,000
流 動 資 産	46,023,641,417	44,018,694,299	2,004,947,118
現 金 預 金	33,437,768,003	32,680,562,945	757,205,058
未 収 入 金	12,139,924,495	10,943,862,255	1,196,062,240
貯 蔵 品	67,929,669	63,211,340	4,718,329
短期貸付金	274,437,582	242,569,363	31,868,219
有 価 証 券	22,563,220	22,563,220	0
仮 払 金	81,018,448	65,925,176	15,093,272
合 計	142,285,329,848	140,675,605,597	1,609,724,251
負 債 の 部			
固 定 負 債	31,157,366,158	32,607,159,870	- 1,449,793,712
長 期 借 入 金	14,231,300,000	15,380,900,000	- 1,149,600,000
退職給与引当金	16,638,827,930	17,019,031,782	- 380,203,852
長期未払金	142,208,640	62,198,500	80,010,140
保 証 金	145,029,588	145,029,588	0
流 動 負 債	13,286,904,700	12,732,837,562	554,067,138
短期借入金	1,149,600,000	1,219,275,000	- 69,675,000
未 払 金	11,132,189,535	10,476,652,699	655,536,836
前 受 金	745,860,645	639,962,508	105,898,137
預 り 金	257,654,520	395,427,355	- 137,772,835
保 証 金	1,600,000	1,520,000	80,000
基 本 金 の 部	97,841,058,990	95,335,608,165	2,505,450,825
基 本 金	139,704,281,834	136,572,555,041	3,131,726,793
第 1 号 基 本 金	131,301,722,237	129,458,522,659	1,843,199,578
第 2 号 基 本 金	2,400,000,000	1,200,000,000	1,200,000,000
第 4 号 基 本 金	6,002,559,597	5,914,032,382	88,527,215
翌年度繰越消費支出超過額	- 41,863,222,844	- 41,236,946,876	- 626,275,968
平成19年度消費支出準備金	0	0	0
合 計	142,285,329,848	140,675,605,597	1,609,724,251

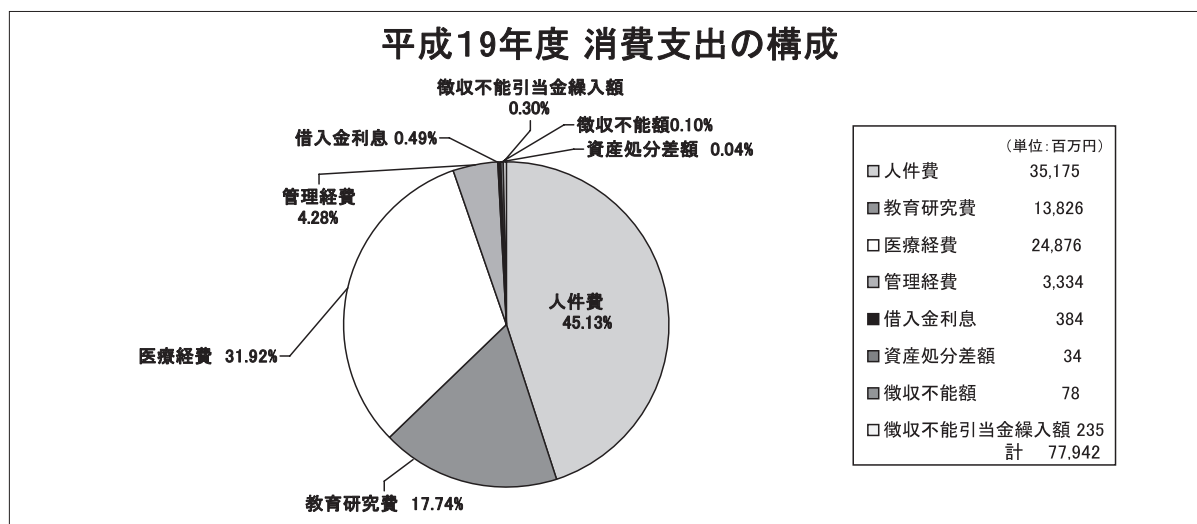
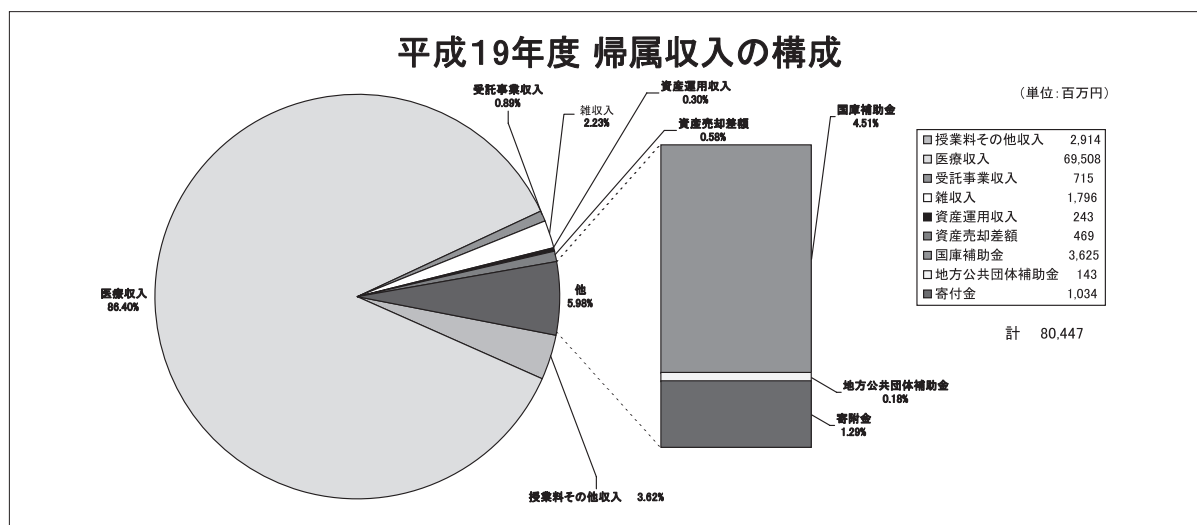
平成20年6月文部科学省へ提出

* 徴収不能引当金¥234,971,577円は未収入金から控除されています。

4) 主要な財務指標の推移

区 分	平成 14年度	平成 15年度	平成 16年度	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度
消費収支関係財務比率 (単位：%)						
①消費支出比率 (消費支出/帰属収入)	97.9%	97.1%	101.7%	98.6%	97.2%	96.9%
②学生生徒等納付金比率 (学生生徒等納付金/帰属収入)	3.6%	3.4%	3.6%	3.6%	3.5%	3.4%
③寄付金比率 (寄付金/帰属収入)	2.2%	1.2%	2.0%	1.2%	1.7%	1.3%
④補助金比率 (補助金/帰属収入)	5.7%	5.9%	5.9%	5.5%	4.7%	4.7%
⑤医療収入比率 (医療収入/帰属収入)	86.1%	86.5%	85.8%	86.8%	87.0%	86.4%
⑥人件費比率 (人件費/帰属収入)	43.9%	45.3%	47.1%	44.9%	45.1%	43.7%
⑦教育研究経費比率 (教育研究経費/帰属収入)	49.4%	47.7%	48.9%	49.2%	47.6%	48.1%
⑧帰属収支差額比率 (100% - 消費支出比率)	2.1%	2.9%	-1.7%	1.4%	2.8%	3.1%
貸借対照表関係財務比率 (単位：%)						
①流動比率 (流動資産/流動負債)	293.5%	311.5%	334.1%	336.0%	341.8%	346.4%
②固定比率 (固定資産/自己資金)	112.1%	108.2%	106.5%	103.2%	101.4%	98.4%
③固定長期適合率 (固定資産/(自己資金+固定負債))	79.1%	78.0%	77.2%	76.0%	75.6%	74.6%
④負債比率 (総負債/自己資金)	57.0%	53.2%	51.4%	49.7%	47.6%	45.4%
⑤自己資金比率 (自己資金/総資産)	63.7%	65.3%	66.1%	66.8%	67.8%	68.8%

* 自己資金 = 基本金 + 消費収支差額
平成20年6月文部科学省報告



財 産 目 録

平成 20 年 3 月 31 日

学校法人 慈恵大学

科 目	数 量	金 額(円)
一、基本財産		96,261,688,431
1. 土地	154,092.42m ²	6,331,229,667
(1)校地	55,338.48m ²	1,262,224,051
(2)その他	98,753.94m ²	5,069,005,616
2. 建物	287,340.16m ²	68,065,167,199
(1)法人本部	4,813.62m ²	960,097,282
(2)一般校舎	72,210.06m ²	15,599,456,903
(3)図書館	3,882.20m ²	131,316,678
(4)講堂	1,168.99m ²	123,574,595
(5)その他	205,265.29m ²	51,250,721,741
3. 図書	334,117冊	2,653,785,568
4. 教具、校具、備品	7,578件	11,734,873,546
5. その他		7,476,632,451
二、運用財産		46,023,641,417
1. 現金、預金		33,437,768,003
2. 有価証券		22,563,220
3. 未収入金		12,139,924,495
4. その他		423,385,699
資産の部合計		142,285,329,848
三、固定負債		31,157,366,158
1. 長期借入金		14,231,300,000
2. 退職給与引当金		16,638,827,930
3. 長期未払金		142,208,640
4. 保証金		145,029,588
四、流動負債		13,286,904,700
1. 短期借入金		1,149,600,000
2. 未払金		11,132,189,535
3. 前受金		745,860,645
4. その他		259,254,520
負債の部合計		44,444,270,858
純 資 産		97,841,058,990

上記の通り相違ありません。

平成20年 5月 22日

監 事 濱 邦 久



監 事 岡 島 進 一 郎





監 査 報 告 書

平成 20 年 5 月 22 日

学校法人 慈恵大学
理事長 栗原 敏 殿

学校法人 慈恵大学

監事 濱 邦久 
監事 岡島 進一郎 

私たち学校法人慈恵大学の監事は、私立学校法第37条第3項及び寄附行為第15条の定めに基づき、平成19年度（平成19年4月1日から平成20年3月31日まで）の財産状況、及び理事の業務の執行を監査いたしました。その結果について以下の通り報告いたします。

1. 監査方法の概要

- (1) 会計監査について、帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査を実施し、計算書類の正確性を検討しました。
- (2) 業務監査については、理事会及び評議員会に出席して理事から業務の報告を聴取し、また、関係書類の閲覧など、必要と思われる監査手続を用いて業務執行の妥当性を検討しました。

2. 監査の結果

- (1) 資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表並びに財産目録は、会計帳簿の記載と合致し、学校法人慈恵大学の平成20年3月31日現在の財政状態、及び同日をもって終了する会計年度の経営状況を適正に表示しているものと認めます。
- (2) 理事の業務執行に関しては、不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実は認められません。

以上

7. 理事会

定例理事会の開催状況（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

議 事	内 容
平成19年4月26日 1. 議決事項 1) 教員人事 2) 評議員会議長の選任について 3) 懲戒委員会提案事項の件 2. 報告事項 1) 法人関係報告 (1) 学校法人慈恵大学役員選任報告 (2) 平成19年度事業計画 (3) 平成19年度俸給表 (4) 看護職員採用状況及び看護学科、看護専門学校卒業生の状況 (5) 学校法人慈恵大学組織図 (6) 幹部職員一覧 (7) 株式会社慈恵実業役員一覧	2) 学事関係報告 3) 病院関係報告 (1) がん拠点病院申請の件 (2) 平成19年度初期臨床研修医採用の件 (3) レジデントの採用状況 3. 現況報告 (1) 附属病院（本院）の現況 (2) 晴海トリトンクリニックの現況 (3) 青戸病院の現況 (4) 第三病院の現況 (5) 柏病院の現況 4. その他 (1) 新旧役員懇親会の開催について 日時：4月26日（木）午後6時 (2) 評議員会日程について 日時：5月28日（月）午後3時
平成19年5月24日 1. 議決事項 1) 教員人事 2) 平成18年度決算 3) 夏季賞与資金借入れについて 2. 報告事項 1) 法人関係報告 (1) 平成18年度事業報告 2) 学事関係報告 3) 病院関係報告 (1) オーダリングシステムの導入について (2) 森田療法センターの開設について	3. 現況報告 (1) 附属病院（本院）の現況 (2) 晴海トリトンクリニックの現況 (3) 青戸病院の現況 (4) 第三病院の現況 (5) 柏病院の現況 4. その他 (1) 同窓会会長、副会長の交代について (2) 評議員会日程について 日時：5月28日（月）午後3時
平成19年6月28日 1. 新役員報告 1) 寄附行為第6条第5号理事について 2) 寄附行為第24条第5号評議員について 2. 議決事項 1) 教員人事 2) 客員教授委嘱 3) 青戸病院リニューアル委員会の設置について 3. 報告事項 1) 法人関係報告 (1) 労働組合との交渉結果について (2) 慈恵大学行動憲章・行動規範のアンケート集計結果について (3) 宮崎県穆佐小学校児童招待の件 (4) 宮崎県特別大使受入れの件	2) 学事関係報告 (1) 部署名変更 看護学修士課程設置準備室 平成19年6月1日 (2) 教授会議関係報告 3) 病院関係報告 4. 現況報告 (1) 附属病院（本院）の現況 (2) 晴海トリトンクリニックの現況 (3) 青戸病院の現況 (4) 第三病院の現況 (5) 柏病院の現況 5. その他 1) 麻酔科医師の件 2) 柏病院教職員の善行に対する表彰の件

議 事	内 容
<p>平成19年 7月26日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 新潟県中越沖地震について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 間接経費取扱いのガイドラインについて</p> <p>(2) スポーツ医学研究室について</p> <p>(3) 看護学修士課程を医学研究科に設置する件について</p> <p>(4) 大学ガイド2008</p>	<p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>
<p>平成19年 9月27日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 受配者指定寄附金受入れ継続の件</p> <p>3) 資金運用に新品を加え別枠管理とする件</p> <p>4) リハビリテーション医学講座の本拠地の移転について</p> <p>5) 薬理学講座第1. 第2. の統合について</p> <p>6) 看護学修士課程の設置場所について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 創立130周年記念事業について</p> <p>(2) 新潟県中越沖地震義援金について</p> <p>2) 学事関係報告</p>	<p>(1) 医学部定員増、メディカルスクール構想について</p> <p>(2) 教員の海外渡航に関する規程について</p> <p>(3) 学事関係報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 平成20年度初期研修医とレジデントの採用について</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>
<p>平成19年10月25日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 職員管理職人事について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 事務組織の改編について</p> <p>(2) 創立120周年記念募金事業報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 研究費に関する管理規定</p> <p>(2) 大学院学則の改定</p> <p>(3) 学事報告</p>	<p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 平成20年度初期臨床研修医マッチング結果について</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>* 大学広報第18号</p> <p>* 平成18年度医療安全推進室活動報告</p>

議 事	内 容
<p>平成19年11月22日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 賞与資金借入れについて</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 上半期収支状況について</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 東京慈恵会医科大学の研究費不正運用による取引停止取扱規程</p> <p>(2) 東京慈恵会医科大学 病原体等安全管理規程等の改正</p> <p>(3) 学事報告</p>	<p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 青戸病院リニューアルについて</p> <p>(2) 柏病院「職業倫理綱領」「臨床倫理の原則」の制定</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p>
<p>平成19年12月27日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 職員管理職人事（平成20年4月1日付け）</p> <p>3) 東京都の道路拡張に伴う第三病院敷地買収の件</p> <p>4) 狛江市の幹線道路整備事業への協力依頼通知の件</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 勘定科目取扱規則制定の件</p> <p>(2) 創立130年記念事業委員会について</p> <p>(3) 株式会社慈恵実業報告</p> <p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p>	<p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 柏病院「職業倫理綱領」「臨床倫理の原則」の制定</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 一部の週刊誌報道について</p> <p>2) 評議員会の日程について</p> <p>3月11日（火）午後3時</p> <p>5月27日（火）午後3時</p>
<p>平成20年1月24日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 教員人事</p> <p>2) 看護学科長選任（平成20年4月1日付け）</p> <p>3) 職員管理職人事（平成20年4月1日付け）</p> <p>4) 大学院医学研究科看護学専攻修士課程設置構想について</p> <p>5) 平成20年度基礎系講座定員について</p> <p>6) 平成20年度附属4病院診療部・中央診療部定数表</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 株式会社慈恵実業 第33期決算</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院（本院）の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 成医会例会案内</p>

議 事	内 容
<p>平成20年 2月28日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 平成20年度予算(案)について</p> <p>2) 教員人事</p> <p>3) 職員管理職人事(平成20年4月1日付け)</p> <p>4) 参与の選任について</p> <p>5) 65歳以上の医師(退任教授)の診療について</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 関連当事者の取引にかかわる調査について</p> <p>(2) 会計検査院実地検査報告</p> <p>(3) 第三病院の土地売却の件</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 東京社会保険事務局および東京都による共同指導報告</p> <p>3. 現況報告</p> <p>(1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>(2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>(3) 青戸病院の現況</p> <p>(4) 第三病院の現況</p> <p>(5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 今後のスケジュール(予定)</p> <p>評議員会 3月11日(火)午後3時</p> <p>5月27日(火)午後3時</p>
<p>平成20年 3月27日</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 平成20年度予算(案)について</p> <p>2) 第2号基本金の組み入れと特定預金の積み上げ</p> <p>3) 退職給与引当特定預金の積み上げ</p> <p>4) 教員人事</p> <p>5) 大学院医学研究科看護学専攻修士課程設置について</p> <p>6) 職員管理職人事(平成20年4月1日付け)</p> <p>2. 報告事項</p> <p>1) 法人関係報告</p> <p>(1) 平成19年度中に制定・改定された規程について</p>	<p>2) 学事関係報告</p> <p>(1) 学事報告</p> <p>3) 病院関係報告</p> <p>(1) 病院の理念の改定について</p> <p>3. 現況報告</p> <p>1) 附属病院(本院)の現況</p> <p>2) 晴海トリトンクリニックの現況</p> <p>3) 青戸病院の現況</p> <p>4) 第三病院の現況</p> <p>5) 柏病院の現況</p> <p>4. その他</p> <p>1) 今後のスケジュール(予定)</p> <p>評議員会 5月27日(火)午後3時</p>
<p>平成20年 3月28日臨時理事会</p> <p>1. 議決事項</p> <p>1) 大学役員の選任</p> <p>(1) 寄附行為施行規則第31条附属病院副院長の選任</p>	

8. 評議員会

評議員会の開催状況（平成19年4月1日～平成20年3月31日）

議 事	内 容
平成19年5月28日 1. 諮問事項 1) 平成18年度決算 2) 平成18年度監査報告 3) 平成18年度事業報告 2. 報告事項 1) 平成19年度事業計画 2) 学事報告 3) オーダリングシステム導入について 4) 平成18年度中に制定・改定・廃止となった規程類の件	3. その他
平成20年3月11日 1. 諮問事項 1) 平成20年度予算の件 2) 青戸病院リニューアルの件 3) 大学院 医学研究科看護学専攻修士課程設置申請の件 2. 報告事項 1) 学事報告 2) 第三病院の土地売却の件	3) 創立120周年記念募金事業報告 4) 創立130周年記念事業について 5) オーダリングシステム導入後の稼動状況について 6) その他 (1) 次回評議員会の開催について 日時：5月27日（火）午後3時 3. その他

9. 監査室報告

平成19年度は公的補助金を中心に内部監査を実施した。公的補助金以外に実施した内部監査は、「内部統制等の意識調査」、「事務部門における業務手順書の整備状況調査」、「固定資産管理業務の内部監査」であった。

1. 平成19年度に実施した内部監査

- 1) 慈恵大学行動規範第14条に基づく内部統制状況調査
- 2) 平成18年度私立大学等経常費補助金特別補助の内部監査
- 3) 平成18年度交付文部科学省科学研究費補助金の内部監査
- 4) 平成18年度交付厚生労働省科学研究費等補助金の内部監査
- 5) 事務部門における業務手順書整備状況の内部監査
- 6) 平成19年度固定資産管理業務の内部監査
- 7) その他

2. 監査報告会等の実施

- 1) 大学監事への内部監査報告 2回（平成19年9月、平成20年3月）
- 2) 監査法人トーマツへの内部監査報告 1回（平成19年11月）
- 3) 監査法人と理事者で行われる理事者ディスカッションへの出席（平成19年9月）

Ⅱ. 東京慈恵会医科大学

1. 教授、その他の人事（平成19年4月～平成20年3月）

1) 平成20年3月31日付退任教授

氏名	旧担当	現在
川村 将弘	薬理学	名誉教授の称号を贈る
栗原 邦弘	形成外科学	客員教授の称号を贈る
衛藤 義勝	小児科学	客員教授の称号を贈る
井上 聖啓	内科学	
高橋 知義	自然科学教室 化学研究室	

2) 新任教授

氏名	担当	就任年月日	経歴	備考
常岡 寛	眼科学	平19.4.1	昭和51年 本学卒	眼科学 准教授より
桑野 和善	内科学 (呼吸器内科)	平19.4.1	昭57年 鹿児島大卒	
吉村 道博	内科学 (循環器内科)	平19.4.1	昭和61年 宮崎医大卒	
安保 雅博	リハビリテーション 医学	平19.4.1	平成2年 本学卒	リハビリテーション 医学講師より
岡部 正隆	解剖学	平19.4.1	平成5年 本学卒	解剖学 講師より
松藤 千弥	分子生物学	平19.5.1	昭和58年 本学卒	分子生物学 定員外教授より
水之江 義充	細菌学	平19.6.1	昭和53年 鳥取大卒	
柳澤 裕之	環境保健医学	平19.8.1	昭和57年 本学卒	
岩楯 公晴	法医学	平19.9.1	平成元年 筑波大卒	
伊藤 洋	精神医学	平19.4.1	昭和53年 本学卒	精神医学 准教授より
小林 直	内科学	平19.5.1	昭和49年 本学卒	内科学 准教授より
佐々木 敬	内科学	平19.7.1	昭和55年 本学卒	内科学 准教授より
大橋 十也	DNA 医学研究所	平19.8.1	昭和56年 本学卒	DNA 医学研究所 准教授より
吉田 和彦	外科学	平19.11.1	昭和55年 本学卒	外科学 准教授より
馬目 佳信	DNA 医学研究所	平20.1.1	昭和57年 京都府立医大卒	DNA 医学研究所 准教授より
中村 敬	精神医学	平20.2.1	昭和57年 本学卒	精神医学 准教授より
高木 一郎	内科学	平20.3.1	昭和54年 本学卒	内科学 准教授より

3) 新任客員教授

氏 名	所 属	就任年月日	備 考
山下直美	DDS 研究所	平19. 5. 1	武蔵野大学薬学部教授 (期限 5 年間)
前田俊彦	内 科 学	平19.10. 1	東京国税局診療所
栗山 哲	内 科 学	平19.12. 1	済生会中央病院
大橋正洋	リハビリテー ション医学	平20. 1. 1	神奈川県リハビリテーション病院

4) 特任教授

氏 名	所 属	就任年月日	備 考
関 啓 子	細 菌 学	平19. 4. 1	特任期間：平成19年 4 月 1 日～ 平成21年 3 月31日
穴澤貞夫	看 護 学 科	平19. 4. 1	特任期間：平成19年 4 月 1 日～ 平成20年 3 月31日
伊藤文之	看護学科(兼任)	平19. 4. 1	特任期間：平成19年 4 月 1 日～ 平成22年 3 月31日
神谷直樹	産婦人科学(晴海トリ トッククリニック)	平19. 6. 1	特任期間：平成19年 6 月 1 日～ 平成22年 5 月31日
佐藤幸一	自然科学教室 物理学研究室	平20. 1. 1	特任期間：平成20年 1 月 1 日～ 平成22年 3 月31日
溝呂木ふみ	内 科 学	平20. 2. 1	特任期間：平成20年 2 月 1 日～ 平成23年 1 月31日

2. 教職員数

1) 教員数（平成20年4月1日現在）

① 医学科

専任教員	1,092名	その他教員	1,122名
(内訳) 本学を本務とする者	1,069名	(内訳) 本学を本務とする者	210名
日本クラブ診療所派遣中	3名	関連病院派遣中	564名
留学中	15名	留学中	41名
休職中	3名	休職中	24名
定年嘱託教員	2名	上記以外（名誉・客員教授・講師 （非常勤））	283名

② 看護学科

専任教員	28名	その他教員	28名
------	-----	-------	-----

2) 初期臨床研修医数（平成20年4月現在）

1年	本院	38名	2年	本院	36名
	〃 歯科	2名		〃 歯科	2名
	青戸病院	7名		青戸病院	9名
	第三病院	24名		第三病院	23名
	柏病院	23名		柏病院	22名
	合計	94名		合計	92名
				総合計	186名

3) 職員数（看護師を含む）（平成20年4月現在）

大学	*	241名
本院	**	1,555名
青戸病院	***	544名
第三病院	***	815名
柏病院	***	858名
計		4,013名
常勤職員のみ（長期非稼働者を除く）		
*	法人事務局、医学科国領校、看護学科、慈恵看護専門学校を含む。	
**	晴海トリトニックを含む。	
***	それぞれ看護専門学校を含む。	

4) 看護師数（平成20年4月1日現在）

	正 看	准 看	その他*	計
本院	982名	1名	80名	1,063名
青戸病院	328名	5名	43名	376名
第三病院	525名	2名	43名	570名
柏病院	555名	0名	68名	623名
計	2,390名	8名	234名	2,632名

* 事務員（看護部所属）、看護補助員、診療補助員、保育士

3. 教 育

1) 医学部医学科学生数など（平成20年4月現在）

(1) 学生数および各学年担当教学委員

学年	人員	内 訳		学年担当教学委員	学 生 保 健 指 導 委 員 会
		男	女		
1	103	81	22	福山 隆夫 教授	委員長 福田 国彦 教授 副委員長 竹田 宏 講 師 委 員 錢谷 幹男 教 授（総合健診・予防医学センター） 齋藤 義弘 講 師（小児科） 吉田 正樹 講 師（感染制御部） 石井 健夫 助 教（1年担当・内科） 三枝 裕和 助 教（ “ ・放射線） 中村 敬 教 授（ “ ・精神） 吉田 哲 講 師（2年担当・内科） 横田 邦信 准教授（3年担当・内科） 木下 陽 助 教（4年担当・内科） 上竹慎一郎 助 教（5年担当・内科） 宇都宮保典 講 師（6年担当・内科） 中山 和彦 教 授（2～6年担当・精神）
2	103	82	21	大川 清 教授	
3	99	79	20	柳澤 裕之 教授	
4	104	66	38	小川 武希 教授	
5	106	71	35	阿部 俊昭 教授	
6	102	66	36	吉村 道博 教授	
計	617	445	172		

（国領校：103名 西新橋校：514名）

(2) 教学委員長 学生部長

大学事務部長

• 教学委員長	田嶋 尚子 教授
• 副教学委員長	渡辺 直熙 教授
“	寺坂 治 教授
• 学生部長	中川 秀己 教授
• 副学生部長	羽野 寛 教授
“	福山 隆夫 教授
• 大学事務部長	高橋 実貴雄

2) 医学部看護学科学生数など（平成20年4月現在）

(1) 学生数および学年担当委員など

学年	人員	内 訳		学 年 担 当 委 員 等
		男	女	
1	42	1	41	委 員 伊藤 文之 教 授（保健指導担当）
2	43	1	42	“ 菊池麻由美 講 師（1年担当）
3	35	0	35	“ 伊達久美子 准教授（2年担当）
4	37	0	37	“ 長 佳代 准教授（3年担当）
計	157	2	155	“ 濱中 喜代 教 授（4年担当）

(2) 教学委員長・学生部長・学事課長

・教学委員長	奥山 則子	教授
・学生部長	茅島 江子	教授
・学事課係長	深澤 博臣	

3) 大学院学生数（平成20年4月現在）

学年	人員	内 訳		大 学 院 委 員 会					
		男	女						
1	27	17	10	委 員 長：	栗原 敏	学長			
2	20	15	5	委 員：	馬詰 良樹	教授	阿部 俊昭	教授	
3	22	18	4		渡邊 直熙	教授	細谷 龍男	教授	
4	25	20	5		松藤 千弥	教授	中川 秀己	教授	
計	94	70	24	オブザーバ：	矢永 勝彦	教授			
					高木 敬三	専務理事	山田 尚	教授	

4) 看護専門学校学生数（平成20年4月現在）

	1年生	2年生	3年生	計
	人	人	人	人
慈恵看護専門学校	100	96	105	301
慈恵第三看護専門学校	52	49	46	147
慈恵青戸看護専門学校		26	37	63
慈恵柏看護専門学校	71	71	61	203
計	223	242	249	714

5) 大学および大学院など

(1) 医学科

① 教学関係

1. 教学委員会

平成19年度医学科教学委員会は国領校選出委員2名および西新橋校選出委員15名の計17名で運営された。委員会は毎月2回定例で開催された。平成19年度の各教学委員の役割分担は以下の通りである。

医学科教学委員会：田嶋尚子（教学委員長）、渡辺直熙（副教学委員長）、寺坂治（副教学委員長）、中川秀己（学生部長、学生担当委員長）、羽野寛（副学生部長、学生担当副委員長）、福山隆夫（副学生部長、学生担当副委員長、1学年担当）、大川清（教育施設委員長、教育予算担当、2学年担当）、木村直史（試験委員長）、福島統、松藤千弥（カリキュラム委員長、カリキュラム自己点検・評価委員長）、柳澤裕之（3学年担当）、阿部俊昭（5学年担当）、小川武希（4学年担当）、川村哲也（臨床実習教育委員長）、中山和彦（学生相談室委員長）、福田国彦（学生保健指導委員長）、吉村道博（6学年担当）

以上の結果、平成20年度の学生数は1年－103人、2年－103人、3年－99人、4年－104人、5年－106人、6年－102人、合計617人

3. カリキュラムの改訂と経過

1年次のコース臨床疫学Ⅰをコース医療情報・EBMⅠに改称した。2年次コース基礎医科学Ⅱにユニットヒトの発生を新設した。6年次コース医学総論Ⅵにユニット公衆衛生・法医学およびユニット選択ゼミを新設した。平成17年度にカリキュラムを見直し、コース社会医学Ⅱを6年次から4年次に移した経過措置として平成18年度までコース社会医学Ⅱを6年次にも配置していたがこれを廃止した。5年次の臨床医学総合試験Ⅱの合格基準を配点の60%以上から62.5%以上に変更した。カリキュラムのコース構成は医学総論Ⅰ－Ⅵ、総合教育、外国語Ⅰ－Ⅳ、生命基礎科学、基礎医科学Ⅰ、基礎医科学Ⅱ、コース医療情報・EBMⅠ、臨床疫学Ⅱ－Ⅳ、臨床基礎医学Ⅰ－Ⅱ、社会医学Ⅰ－Ⅱ、研究室配属、臨床医学Ⅰ－Ⅲ、選択実習となっている。

4. 教学委員と学生会委員との懇談会

例年同様に平成19年7月9日（月）、平成19年12月3日（月）に開催された。学生会からの主な報告は前年度活動報告、会計報告、平成19年度予算案、京都府立医科大学定期戦成績（5勝14敗1分）、第49回東日本医科学生総合体育大会成績、慈恵祭の準備・報告、学生のアンケート調査結果等であった。また、教学委員と学生会委員との間でカリキュラム、総合試験、講義、実習等についての意見交換があった。

5. 第36回～第40回 Faculty Development

平成19年4月以降の開催および修了証を授与された参加者数は以下の通りである。

第36回 Faculty Development

日 時：平成19年10月6日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：臨床医学演習チュータートレーニング

修了証受領者（29名）

第37回 Faculty Development

日 時：平成19年10月28日（日）

場 所：西新橋校

テーマ：家庭医実習指導医・在宅ケア実習指導医 FD ワークショップ

修了証受領者（家庭医実習指導医、教員、学生、12名）

第38回 Faculty Development

日 時：平成19年12月8日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：OSCE 評価者トレーニング

修了証受領者（36名）

第39回 Faculty Development

日 時：平成20年2月23日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：試験問題作成

修了証受領者（24名）

第40回 Faculty Development

日 時：平成20年3月15日（土）

場 所：西新橋校

テーマ：症候学演習チュータートレーニング

修了証受領者（28名）

6. 第39回～第42回医学教育セミナー

以下のとおり開催された。

第39回医学教育セミナー

日 時：平成19年5月30日（水）

場 所：西新橋校

講 演：① キングス大学におけるコミュニケーション教育

Dr. Elaine Elizabeth Gill (Guy's, King's and St. Thomas' School of Medicine)

② 英国での老年医学

Dr. Michael William Gill (Guy's, King's and St. Thomas' School of Medicine)

第40回医学教育セミナー

日 時：平成19年7月10日（火）

場 所：西新橋校

講 演：① FISH と IPE

大石 杉乃 准教授（看護学科）

② 臨床現場での IPE—英国臨床研修制度から—

福島 統 教授（教育センター）

第41回医学教育セミナー

日 時：平成19年9月10日（月）

場 所：西新橋校

講 演：① 地域基盤型医学教育の実践～家庭医療の現場から

藤沼 康樹 氏（日生協医療部会家庭医療学開発センター所長）

② 英国の卒前教育から何を学ぶのか

松島 雅人 准教授（総合診療部・臨床研究開発室）

第42回医学教育セミナー

日 時：平成19年10月30日（火）

場 所：西新橋校

講 演：① 英国での primary care 教育

Dr. Anne Stephenson (MBChB, Dip. Obst., PhD (Medicine), FHEA Senior Lecturer in General Practice, Director of Community & Education, King's College London)

7. 第30回～第31回カリキュラム特別検討会

以下のとおり開催された。

第30回カリキュラム特別検討会

日 時：平成19年10月22日（月）

場 所：西新橋校

テーマ：平成20年度カリキュラムの概要

講 演：① カリキュラム策定の基本方針

田嶋 尚子 教授（教学委員長、内科学講座）

② 平成20年度カリキュラム改訂の概要

松藤 千弥 教授（カリキュラム委員長、分子生物学講座）

③ 臨床実習の拡充

川村 哲也 准教授（臨床実習教育委員長、内科学講座）

④ 新しい CPC が目指すもの

羽野 寛 教授（CPC 委員長、病理学講座）

第31回カリキュラム特別検討会

日 時：平成20年3月4日（火）

場 所：西新橋校

テーマ：どんな医学生をベッドサイドに送り出すのかー医学総論のプログラム・学内と学外における前臨床実習ー

- 講 演：① 医学総論演習の現状と将来像：コミュニケーション教育を中心に
野呂幾久子 准教授（日本語教育研究室）
② 前臨床実習カリキュラムの現状と将来像
福島 統 教授（医学教育センター）

8. その他の報告事項

1) 新入生オリエンテーション

平成19年4月6日（金）、7日（土）の両日、新1年生を対象にオリエンテーションが行われた。初日は学長より建学の精神と医学生としての心構えについての講話、学生生活についての感想文、自己紹介、学生生活アドバイザーとのグループ討論があり、2日目はカリキュラムの説明、施設利用の説明等があった。

2) 首都大学東京との単位互換協定について

首都大学東京との教育・研究交流協定書に基づき、単位互換に関する覚書が調印された。平成19年度は首都大学東京から前期5名、後期5名、合計10名の学生が、特別科目等履修生として医学科1年生医学総論Ⅰ演習を受講し、単位を認定した。

3) 学祖の墓参および学長、教学委員と学生の懇親会

学長、教学委員、学生代表が平成19年10月13日（土）に青山墓地に眠る学祖高木兼寛先生の墓参をした。また学祖を偲んで千代田区一ツ橋の如水會館で懇親会を開催した。

4) 学生生活アドバイザー

担当教員はそれぞれ2～3名の学生を受持っている。1年生は国領校教員および第三病院勤務教員、2年生は西新橋校基礎講座教員が担当している。また、総括と意見交換のためにアドバイザーが集まって懇談会を開催した。

5) 共用試験システム

「臨床実習開始前の学生評価のための共用試験システム」は本格実施から3年目となった。OSCEは平成20年1月19日（土）に西新橋校大学1号館8階演習室で、CBTは平成20年2月6日（水）に西新橋校4階講堂で実施された。受験者数101名、欠席者なしであった。またCBTは4名の再試験を2月28日（木）に実施した。

6) 4大学学生教育交流会

本学と昭和大学、東邦大学、東京医科大学の4校が持ち回りで年2回の開催が続けられている。カリキュラム全般および臨床実習、卒業試験、医師国家試験、共用試験等に関する話題を中心に継続的な交流が図られている。平成19年度は学生のメンタルヘルスケアや試験問題の共有化、補助金の申請等が話題となり意見交換があった。平成19年度の開催日および当番校は以下の通りであった。

第18回平成19年5月11日（金）東京医科大学

第19回平成19年11月16日（金）東邦大学

7) 医学科大学説明会

平成20年度入学試験のための医学科大学説明会は平成19年8月18日（土）午後1時から中央講堂で開催され、受験生、父兄、進学指導担当教員等約500名の参加があった。なお、当日は大学1号館の講堂および実習室等の教育・施設の見学が行われた。

8) オープンキャンパス

平成19年度の医学科オープンキャンパスは9月8日（土）と9月29日（土）の両日に開催され、約520名の参加があった。

② 入学試験

1. 入学試験は、平成20年1月27日（日）に五反田 TOC ビルで一次試験を、2月8日（金）・9日（土）・10日（日）に本学西新橋校舎で二次試験を実施し、2月13日（水）午後3時に合格発表を行った。志願者数は2,310名、入学者数は103名である。

入学者の内訳は下記の通りである。

- ① 男子 81名、女子 22名
- ② 現役 34名、1浪 41名、2浪 23名、その他 5名
- ③ 地域別入学者数
 - 北海道 3名
 - 東北地方 2名
 - 東京および関東地方 85名
 - 甲信越・北陸地方 2名
 - 東海・近畿地方 6名
 - 山陽地方 0名
 - 四国地方 0名
 - 九州地方 5名

③ 国家試験

1. 医師国家試験

第102回医師国家試験は平成20年2月16日（土）～18日（月）の3日間に渡り実施され、結果が3月28日（金）に発表された。

本学からの受験者数は109人であり、合格者103人、合格率94.5%であった。全国平均合格率は90.6%であり、本学の合格率は全国20位、私立5位であった。新卒者については100人中合格者96人、合格率96.0%（全国平均94.4%）、既卒者については受験者9人中7人が合格し合格率77.8%（全国平均62.2%）であった。

④ 退任記念講義

国領校では、平成20年1月19日（土）午後3時より本館1階講堂にて、高橋知義教授（自然科学教室 化学研究室）の最終講義「演題：ステロイド化学の散歩道」が開催された。

最終講義終了後、ベラ食堂で記念パーティーが盛大に開催された。

平成20年1月31日（木）午後2時から大学1号館講堂において開催された。

川村 将弘 教授（薬理学講座）

演題：「副腎皮質研究の醍醐味－ステロイドホルモンから ATP へ－」

栗原 邦弘 教授（形成外科学講座）

演題：「再建の夢を追って－再建医療の変遷と可能性－」

衛藤 義勝 教授（小児医学講座）

演題：「世界のこども達の為に－難病児への先端治療研究から小児医療改革に向けて－」

基礎医学、臨床医学の分野で活躍された3教授の含蓄ある講義に学生および教職員一同感銘を受けた。次いで田嶋尚子医学科長から同じく定年退任される井上聖啓教授（内科学）、高橋知義教授（国領校化学）の略歴が紹介された後、栗原敏学長より挨拶があり記念品が贈呈された。また、学生会より記念品並びに花束贈呈があり、同窓会、父兄会より記念品の贈呈があった。

退任記念講義終了後、退任される5教授を囲んで退任記念パーティーが「東京プリンスホテル サンフラワーホール」にて開催された。5教授を囲んで多くの教職員および同窓、学生が参集し、盛大であった。

(2) 看護学科

① 教学関係

1. 教学委員会

看護学科教学委員会は看護学科教学委員長 1 名、看護学科教学委員 4 名をもって構成され、教学委員会は定例として毎月 1 回開催されている。

教学委員は以下の通りである。

平成19年 4 月～平成20年 3 月

教学委員長 奥山 則子

教学委員 藤野 彰子、櫻井美代子、茅島 江子、平尾真智子

2. 教学関連の主な事項

- ① 平成19年度 1 年生（16期生）42名、2 年生（15期生）37名、3 年生（14期生）37名、4 年生（13期生）34名で新学期をむかえた。
- ② 平成19年度オリエンテーション（看護継続ゼミ）は学年の始めにあたり、「慈恵をみる、知る、学ぶ」を全体テーマとし、4 月 6 日から 4 月13日にかけて実施された。この間、学年間討議、学年別討議、昼食会、レクリエーションのほか、本学高次元医用画像工学研究所所長 鈴木直樹教授による講演会（テーマ～近未来の医療技術で探る地球の過去－北極に眠るマンモスの研究－）やシンポジウム（テーマ～技を極めた慈恵人）を開催し、大変好評であった。また、健康診断や防災や防犯についての講習会、カルト教団への注意を喚起する講演も平行して行なわれた。
- ③ 平成16年度より実施されている「医療の安全管理と倫理ワークショップ」、への学生参加について、昨年度に引き続き「看護継続ゼミⅣ」の講義の一環として実施した。
- ④ 平成19年度の特別な審議事項として、次の事項を取り上げた。
 - ・学生の国家試験問題活用を目的とした WBT システムの運用
 - ・学生便覧の CD-ROM 化
 - ・従来の「戴帽式」の替わる行事の催行
 - ・次年度のオリエンテーションガイドブックの作成
- ⑤ 次の期間に定期試験を実施した。
 - ・前期 平成19年 6 月23日
平成19年 9 月11日～9 月19日
 - ・後期 平成20年 1 月29日～2 月 6 日
- ⑥ 平成19年 7 月12日、15期生の「看護への思いを新たにする式」の一環として、中林由江氏（東京慈恵会医科大学付属青戸病院看護部主任・・・本学 4 期生）による講演会が実施され、9 月22日に本学関係者、ご父母をお招きし、式典を行った。
- ⑦ 平成19年10月12日、「看護継続ゼミ」の一環として、全国盲ろう者協会 手話通訳士の光成沢美氏による講演会（テーマ～障害をもった人と共に生きるとは）を開催した。
- ⑧ 平成19年10月13日、学祖高木兼寛先生の墓参があり、学生代表が参加した。
- ⑨ 平成19年10月28日、解剖諸霊位供養法会が行なわれ、4 年生が参加した。
- ⑩ 平成19年11月24日、26日、4 年生の看護研究発表会が行なわれた。
- ⑪ 平成20年 2 月 5 日、看護学科の兼担教員並びに非常勤教員との意見交換の場として講師会を開催した。
- ⑫ 平成20年 3 月 7 日、医学科と合同の卒業式が西新橋で行なわれ、13期生34名が卒業し、慈大賞と同窓会賞がそれぞれ 1 名に贈られた。

② 入学試験

1. 平成20年度入学試験は、平成20年 2 月10日（日）に第一次試験を、2 月13日（水）に第二次試験を実施した。志願者数は、246名、入学者は42名、その内訳は次のとおりである。

(3) 大学院

従前より大学院の改善充実を図るため「大学院問題検討会」にて種々検討を重ねてきた。
平成19年度は改善案を実行に移した。

主な改善項目は

- ① 大学院専攻を従来の5専攻から医学系の1専攻とし、授業科目を①器官病態・治療学②成育・運動機能病態・治療学③神経・感覚機能病態・治療学④病態解析・生体防御学⑤社会健康医学の5科目とした。また各授業科目の中に授業科目細目を設け、大学院教授は授業科目細目を担当し、シラバスならびに講義、演習、実習の項目に分けカリキュラムを作成し単位認定を明確化した。
- ② 大学院の目的に、研究者養成に加え教育者養成を盛り込み、共通カリキュラムの中で①医の倫理②医学研究法概論③医学教育学を必修科目とした。
- ③ 学位申請権は、大学院教授全員が持つこととなった。
- ④ 学位審査はThesisにより審査することとした。また、主論文のインパクトファクターが1以上であれば、参考論文を添付しなくても良いこととなった。
- ⑤ 学位審査は公開で行い、指導教授は審査委員になれなくなった。
- ⑥ 社会人の受け入れが可能となるように大学院学則を改定し文部科学省へ届出を行い、社会人用のカリキュラムを作成した。
- ⑦ 医学研究科における研究の充実とその活性化を図るため医学研究科の助成制度（東京慈恵会医科大学医学研究科研究推進費）を創設した。
これにより1研究あたり年間100万円以上500万円未満とし、3年間を限度として総額1000万円と上限とする研究について助成されることとなった。

平成20年度の大学院入試は2回実施し、1回目（平成19年9月15日）の入試はレジデント制

度との関係を考慮し、レジデント採用試験前に実施し、2回目（平成20年2月2日）の入試から社会人選抜を実施した。その結果、27名（うち社会人4名）が合格した。この結果、大学院全体の学生数は94名となった。本学の大学院生は本学の各講座、総合医科学研究センターのみならず、国外ではヴァンダービルト大学、ノースウェスタン大学、スタンフォード大学、ハーバード大学など、国内では東京医科歯科大、大阪大、千葉大および放射線医学総合研究所、国立循環器病センター研究所、など国内外の様々な大学、研究所でも広く研究を行っている。

参加者は5年生（参加者の90％）を中心に1,357名の参加があった（参加者の60％が関東地区在住学生）。本学ブースには、5年生を中心に30大学72名（大学名・氏名記載者数）の学生が来場した。

- 7) 今年度より研修医の自主勉強会が始まった。自主勉強会は研修医の自主性に任せる形式で運用し、テーマに対して専門医がコメンテータとして出席要請があった場合には、協力する形で開始した。なお、準備等（プロジェクター、配布資料印刷）においては教育センターが支援することとなった。

回数	日 程	テ ー マ
第1回	平成19年9月1日（土）	輸液療法の基本
第2回	平成19年9月8日（土）	抗生物質の使い方
第3回	平成19年9月15日（土）	不眠・睡眠薬
第4回	平成19年9月22日（土）	鎮痛剤・ペインコントロール
第5回	平成19年9月29日（土）	血圧低下・昇圧剤
第6回	平成19年10月6日（土）	意識障害
第7回	平成19年10月13日（土）	不整脈（頻脈・徐脈）
第8回	平成19年10月20日（土）	血糖コントロール
第9回	平成19年10月27日（土）	電解質異常
第10回	平成19年11月10日（土）	市中肺炎
第11回	平成19年11月17日（土）	肝胆膵疾患
第12回	平成19年12月22日（土）	脳血管障害
第14回	平成20年1月26日（土）	脂質異常
第15回	平成20年2月2日（土）	腎不全
第16回	平成20年2月9日（土）	呼吸・レスピレーター管理
第17回	平成20年2月16日（土）	心不全
第18回	平成20年2月23日（土）	高血圧
第21回	平成20年3月15日（土）	腹痛・腸疾患
第22回	平成20年3月22日（土）	心エコー
第23回	平成20年3月29日（土）	消化管出血

第13回、19回、20回は休会となった。

2. 専門修得コース（レジデント）

- 1) 平成19年度より、レジデント91名（本学初期臨床研修修了者69名、他施設初期臨床研修修了者17名（本学卒4名）、大学院単位取得者5名）が専門修得コースでの研修を開始した。
- 2) レジデント91名、リサーチレジデント9名の合計100名が平成20年3月31日をもって専門修得コースを修了した。
- 3) 平成20年度レジデントの採用試験を平成19年9月29日（土）に実施し、その後も随時追加試験を実施した結果、123名を採用することになった。採用者の内訳は次の通りである。
本学初期臨床研修修了者79名、他施設初期臨床研修修了者34名（本学卒11名）、大学院単位取得者10名

(5) 生涯学習センター

1. 登録者数：平成20年3月現在253名、内港区医師会31名、中央区医師会6名である。
2. 利用者数：平成19年度は180名である。
3. テレフォンサービス利用件数：平成19年は124件である。
4. 月例セミナーが下記のとおり開催された。

- 1) 第160回・平成19年4月14日
慈恵鏡視下手術トレーニングセンターの現状と発展
浦島 充佳 准教授（臨床研究開発室）
- 2) 第161回・平成19年5月12日
血管病（動脈瘤とASO）治療の最先端
大木 隆生 教授（小児・血管外科）
- 3) 第162回・平成19年6月9日
舌癌・咽頭癌治療で社会復帰を
加藤 孝邦 教授（耳鼻咽喉科）
- 4) 第163回・平成19年7月14日
「肥満症」最近の話題
：内臓脂肪からメタボリックシンドローム
阪本 要一 教授（内科）
- 5) 第164回・平成19年9月8日
乳癌術後の乳房再建はここまでできる
武石 明精 准教授（形成外科）
- 6) 第165回・平成19年11月10日
結核－見落とさない為の注意点と最近の診断法
田井 久量 准教授（呼吸器内科）
- 7) 第166回・平成20年2月9日
安心して受けられる全身麻酔
上園 晶一 教授（麻酔科）
- 8) 第167回・平成20年3月8日
体にやさしい呼吸器の手術
森川 利昭 教授（呼吸器外科）

5. 第28回夏季セミナー

「メタボリックシンドロームをめぐる最新の話題－ここまで求められる診断と治療－」が平成19年8月4日（土）午後4時より栗原邦弘教授（形成外科）の司会で行われ、参加者は101名であった。

- 1) オーバービュー
景山 茂（薬物治療学研究室）
- 2) メタボリック症候群と高血圧
徳留 悟朗（腎臓・高血圧内科）
- 3) メタボリックシンドロームと糖代謝
横田 太持（糖尿病・代謝・内分泌内科）
- 4) 循環器からみたメタボリックシンドローム
池脇 克則（循環器内科）
- 5) 生活習慣と肝機能障害
石川 智久（消化器・肝臓内科）
- 6) 総合討論

4. 研究

1) 教育研究助成委員会・大型プロジェクト対策委員会・発明委員会

- (1) 教育研究助成委員会は、本学の教育と研究の向上を図るため、これにかかわる学内予算の配分、文部科学省科学研究費補助金をはじめとする各種財団等からの補助・助成についての対応審議のほか、平成19年10月からは、研究費の運営・管理に関して不正防止計画を策定・推進する部署としての活動も行っている。
 - ① 平成19年度の委員会は、委員長：渡辺直熙、委員：大川清、羽野寛、田嶋尚子、橋本和弘、寺坂治、茅野江子の各教授及び高木敬三専務理事で構成された。
 - ② 平成19年度における文部科学省科学研究費補助金の管理件数は109件、総額197,525千円（間接経費含）であった。厚生労働省科学研究費補助金のほか各種独立行政法人委託事業等については、採択後大学で経理事務を行なった主任研究者および分担研究者は47件、総額291,517千円、また学外各種財団等からの研究補助・助成金は25件、総額52,250千円であった。
 - ③ 平成19年度私立大学等経常費補助金（特別補助）の改組・メニュー化に伴うゾーンの選択
 - ④ 平成18年度科学研究費補助金における研究・研究成果数の報告
 - ⑤ 科学研究費補助金取扱規程の一部改定
 - ・教員の職名変更に伴う応募資格者の職名を改定した
 - ⑥ 東京慈恵会医科大学研究費に関する管理規程の制定
 - ・本規程は本学で研究を遂行する上での研究費の適正な運営・管理を目的とし、研究費は、研究と教育に関する競争的資金のほか、研究事業の受託・共同研究費、研究助成金、学内研究費等大学管理で経理を行うものも対象とする。
 - ・研究費に関する管理は、学長が最高管理責任者、統括管理責任者を教育研究助成委員長、事務管理責任者を財務部長とする。
 - ・当委員会は不正防止計画を策定・推進する部署とする。
 - ⑦ 「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」に基づく体制整備等の実施状況報告書を文部科学省に提出
 - ・実施状況について文部科学省の立ち入り調査が実施され対応した。
 - ⑧ 平成20年度教育研究経費予算申請案の決定
 - ⑨ 文部科学省研究設備費及び慈恵大学一般研究設備費による機器選定
 - ⑩ 各種財団研究助成選考
- (2) 大型プロジェクト対策委員会は、全学の研究体制の整備拡充と研究活動の活性化のため、本学がとるべき適切な方策（総合医科学研究センター各研究施設の充実、大型研究設備設置、大型研究プロジェクトの選定等）を審議している。平成19年度の委員会は、委員長：渡辺直熙教授、委員：馬詰良樹、阿部俊昭、森山寛、田尻久雄の各教授と高木敬三専務理事で構成された。
- (3) 発明委員会は、本学が関係する発明と特許について審議している。平成19年度は6件の発明の届出があり、うち1件の発明については特許権等の権利を大学が承継することになった。また、本学所有の発明の実用化を図るため、新技術の開発及び開発成果を実施する企業が独立行政法人科学技術振興機構公募の委託開発事業に選定され、本学は同機構と本発明の再実施権付独占的通常実施権等許諾の契約を締結した。

2) 総合医科学研究センター

平成19年度における総合医科学研究センター DNA 医学研究所、DDS 研究所、高次元医用画像工學研究所、臨床医学研究所の活動状況は次のとおりである。

(1) DNA 医学研究所

DNA 医学研究所は従来からの6部（遺伝子治療研究部、分子免疫学研究部、悪性腫瘍治療

研究部、分子細胞生物学研究部、分子遺伝学研究部、臨床情報部)と、平成19年度よりスタートしたプロジェクト研究部の腎臓再生研究室より構成されている。各部とも、基礎と臨床を結びつける国際的レベルの研究を目標として研究を行い、研究成果を海外英文誌や国際学会で発表した。代表的研究は下記の通りである。

- ・ライソゾーム病に対する遺伝子治療法や再生医療を導入した新規治療法の開発。同疾患に対する酵素補充療法の問題点の克服。
- ・腎不全を克服するための腎臓再生の研究。
- ・悪性腫瘍に対する遺伝子治療法の開発や分子標的治療薬の作用機序に関する基礎的研究。
- ・超音波を利用した脳腫瘍治療法の開発。
- ・腫瘍特異的抗原の解析を取り入れた免疫療法の開発。
- ・白血病細胞モデルを用いた血球分化の分子生物学的解析と分化誘導療法の開発。
- ・アレルギー性疾患におけるサイトカイン IL-31の果たす基礎的・臨床的役割に関する研究。
- ・敗血症の診断法や細胞間の接着に関する研究。スプライシング異常による神経疾患の病因解明とその治療法の開発。
- ・さらに、臨床研究として GMP 施設を使い、脳腫瘍に対する樹状細胞と腫瘍細胞の融合を用いた免疫療法を継続して行った。

DNA 医学研究所は開かれた研究所を目標にしている。塩基配列の決定から微量物質の分析、さらに電子顕微鏡による微細構造に関する受託事業を推進した。学内講座からは多くの一般研究員を受け入れ、大学院生の指導・教育も各部において積極的に行った。また、国内外の学会を主催するとともに、海外留学生および、外国籍教員を受け入れることで国際化を図った。当研究所は、神経疾患の病態におけるユビキチンファミリーの制御機構の解明を柱とした研究活動を行っている。ライソゾーム病、パーキンソン病、筋萎縮性側索硬化症、神経核内封入体病、ポリグルタミン病の疾患脳およびそれらのモデル動物・細胞を対象とし、組織形態学および分子細胞学的に、病態関連物質の細胞内輸送・局在化・分別シグナル、エンドサイトーシスなどを詳細に検討している。また、平成18年度には、日本国内には数少ない、プリオン病組織診断専用のバイオセーフティレベル2の病理組織標本作製室を大学2号館地下1階に設置し、安全管理に十分配慮した環境で、プリオン病の診断および研究を積極的に行っている。

(2) 高次元医用画像工学研究所

本年度の方針として、一昨年終了した文部科学省ハイテクリサーチセンター整備事業にて培った研究成果を発展させ、これらを臨床応用するための努力を学内臨床各科と共同で行った。また同整備事業により第三病院内に設置したハイテクナビゲーション手術室に、今年度 SONY(株) との共同研究により手術ナビゲーション用のハイビジョンシステムを開発しこれを設置した。また本研究所では2つの国策プロジェクトが稼働している。まず、内視鏡手術ロボットの開発が文部科学省科学研究費補助金(基盤研究(S))により行われ、今年4年目を迎える。また今年度あらたに経済産業省インテリジェント手術機器開発の研究プロジェクトが始動し、九大、東大、名古屋工大を含む8大学、4企業と共同で高機能内視鏡開発に関する研究が始まった。これらを含め現在研究所では学内外の研究機関と27テーマの研究プロジェクトが実施されている。また、本研究所の研究成果をもって社会貢献するために、4次元人体図鑑ソフトウェア「Virtual Anatomia」を開発し、ソフトウェア企業の協力を得て市販を開始した。この製品は平成16年度のハイテクナビゲーション手術室の受賞に続き、本年度の(財)日本産業デザイン振興会グッドデザイン賞を受賞することができた。また本研究所自体も同振興会より別途グッドデザイン賞を受賞することができた。自然科学部門での成果としては、ロシア科学アカデミーとの共同研究により、凍結したまま永久凍土から発見されたベビーマンモスのCT解析に成功し、世界で初めてケナガマンモスの解剖学的構造を解明した。この成

果は多くのマスコミに報道されただけでなく、読売新聞とともに本学主催の形で丸ビルおよび科学技術館において学術展示を行い、15万人の一般観客を迎えることができた。

(3) 臨床医学研究所

平成19年度は臨床医学研究所の常勤3名、兼任2名のほか、消化器・肝臓内科、総合診療部、循環器内科、腎臓・高血圧内科、麻酔科、形成外科、脳神経外科など柏病院診療部に所属する教員が一般研究員（総数19名）として参加登録され、臨床医学研究所を中心とした研究ならびに他大学・企業との共同研究が行われた。以下に平成19年度に行った主たる研究項目を列挙する。

- ① 酸化状態におけるラクトフェリンの分子生物学的作用機序の解明
- ② 排卵における活性酸素の役割
- ③ 活性酸素センサーを用いた血液透析回路におけるスーパーオキシドの動態解析
- ④ Persistent Organic Pollutant S-transferase の単離と実用化
- ⑤ がん治療法開発の基礎的研究として
 - ・肝がん発症にかかわる酸化ストレス関与をみる網羅的遺伝子 serial 解析
 - ・胃がんに対する光選択的 DPD-siRNA 導入 5-FU 化学療法の試作
 - ・大腸癌肝転移の分子標的予防をめざした非ウイルス性遺伝子転送システムにおけるリピッドナノパーティクルの開発
 - ・薬物及び遺伝子転送システムを介して癌治療を目指した磁性ナノパーティクルの開発
- ⑥ 樹状細胞を利用した癌ワクチンの開発
- ⑦ 筋膜を用いた新しい粘膜炎組織の検討
- ⑧ $\alpha 2$ アゴニストによる脊髄神経伝達物質の抑制と長期髄腔内投与の影響
- ⑨ ダイオキシン還元的開裂酵素の発見と実用化への検討
- ⑩ 動脈硬化とリポ蛋白
 - ・新規開発 HPLC による酸化 LDL の血小板からのセロトニン放出作用の証明
 - ・ジアシルグリセロールのメタボリックシンドロームに対する応用の検討
 - ・薬剤抵抗性高脂血症アポC-II欠損症に対する治療的検討
 - ・新規開発したリポ蛋白分離法による動脈硬化性疾患リスクの評価
- ⑪ 食後高脂血症の病態と治療に関する研究
今後においても上記項目のさらなる追求を企図する所存である。

(4) DDS 研究所

DDS 研究所では、ナノテクノロジーを駆使したドラッグデリバリー（DDS）製剤の研究・開発を行っている。ナノテクノロジーとは、物質をナノメートル（1 nm=10⁻⁹ m）の領域において自在に制御する超微細技術のことである。われわれはナノスケールの高分子微粒子を抗炎症剤の DDS における担体として利用し、効率的な薬剤デリバリーの達成により効果の増強、副作用の軽減、コンプライアンスの向上を目指している。生体適合性・生分解性のポリ乳酸（PLA）を薬剤内包の核とし、網内系を回避（ステルス効果）する水溶性ポリエチレングリコール（PEG）外殻を有する50-100nm のナノ粒子は肝臓・脾臓への取り込みが抑制されて血中滞留性が増し、100nm レベルの血管内皮細胞間隙がある炎症局所の毛細血管から漏出 EPR（Enhanced Permeability and Retention）効果を有する。さらに局所でナノ粒子は徐々に分解して薬剤を放出するとともに、炎症細胞にエンドサイトーシスで取り込まれ、エンドソームで分解して薬剤は細胞質へ放出される。細胞質に標的を有する薬剤が特に有効であると考えて、本年度はステロイド薬のベタメタゾンや血管拡張薬の PGE 1 のほかに、腎移植の GVHD にも応用可能な免疫抑制剤（FK506, CsA, MPA）の開発を行った。細胞内取り込み機構の解明とともに、関節炎および膠原病モデル動物でのこれらナノ製剤の薬効増強を確認した。また、皮下投与可能なナノ製剤開発にも着手している。一

方、標的分子に特異的に結合するリガンド分子を導入することによって薬剤デリバリーの効率を高める能動的ターゲティングとして現在、ナノ粒子に抗T細胞抗体の搭載を行っている。

5. 診 療

1) 病院概況

- (1) 本 院（院長：森山寛、副院長：落合和徳、橋本和弘、谷口郁夫、事務部長：今出進章）
- (1) 病床利用状況
平成19年度の病床利用率は稼働床1,048床に対して87.0%（昨年比-0.2）、平均在院日数は、14.0日（昨年比-0.1日）であった。
なお、平成19年11月より稼働床が1,042床から1,048床に変更となった。
- (2) 患者紹介率
平成19年度の紹介率は年間平均で医療法48.8%（昨年比-2.7）、保険法42.8%（昨年比-2.8）であった。
- (3) 初期臨床研修
平成19年度採用者は医科36名（内訳：本学卒24名、他学卒12名）、歯科2名の計38名であった。
- (4) 行政監査・指導・検査
- ① 平成19年度立入検査（平成19年10月23日）
 - ② 医療法第25条第3項による特定機能病院の立入検査（平成19年10月23日）
 - ③ 精神病院等実地指導（平成19年12月10日）
 - ④ 東京社会保険事務局と東京都との共同による社会保険医療担当者の個別指導（平成20年2月14日～15日）
 - ⑤ 原子力安全技術センターによる放射線障害防止法に基づく定期検査・定期確認（大学1号館、平成20年3月6日、7日）
- (5) 当院で2例目の生体肝移植が実施された。（平成19年11月16日）
- (6) 先進医療
外科より「腹腔鏡下肝切除術」について承認申請に要する症例確保申請があり承認された。（平成19年12月17日付）
- (7) 臨床研究、保険適用外診療（平成19年度審査状況）
認可件数：新規申請71件、変更申請（期間延長など）49件
- (8) 診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業
平成19年7月5日、他大学病院での死亡例について当院での解剖が実施された。
- (9) 病院改修（外来改修等）について
- ① システム関連工事
 - ・オーダリングシステム導入に伴うネットワーク工事（平成19年4月末）
 - ・E棟地下2階電算機械室UPS電源増設工事（平成19年6月）
 - ・外来棟カルテ管理システム改修工事（平成19年5月）
 - ・PACS/RIS用ネットワーク工事（平成19年6月）
 - ・院内各部署オーダー系LAN増設工事（平成19年10月）
 - ② 外来整備工事
 - ・内視鏡部改修工事（平成19年5月）
 - ・腫瘍・血液内科・麻酔部外来改修工事（平成19年6月）
 - ・ウイメンズクリニック新設工事（トイレ他改修工事含む）（平成19年7月）
 - ・外来棟2階内科B・C外来改修、仮トレッドミル検査室新設工事（平成19年11月）
 - ・外来棟地下1階心臓外科外来および2階治験管理室、トレッドミル検査・心エコー室、精神神経科外来改修工事（平成20年3月）
 - ③ 血管撮影装置設置に伴う中央棟3階手術部OR-1改修工事（平成19年5月）
 - ④ 外来棟中央カルテ室防犯カメラ設置工事（平成19年5月）
 - ⑤ グリーン・カウンター設置工事（平成19年5月）

- ⑥ 外来棟読影室他整備工事（その2：設備工事）（平成19年6月）
 - ⑦ 中央棟2階読影室改修工事（平成19年7月）
 - ⑧ 外来棟中央階段手摺改修工事（平成19年7月）
 - ⑨ 外来棟地下1階第1リニアック並びに第2リニアック待合室空調新設工事
（平成19年7月）
 - ⑩ 外来棟玄関脇車路整備工事（平成19年10月）
 - ⑪ NICU3床増床に伴う改修工事（平成19年10月）
 - ⑫ E棟地下1階当直室移転に伴う1階会議室改修工事（平成19年11月）
 - ⑬ 中央棟外来者用多段式立体駐車場設備修理整備工事（平成20年2月）
 - ⑭ 総合健診・予防医学センター内器材庫及び内視鏡検査室、婦人科検査室改修工事
（平成20年3月）
 - ⑮ 中央棟CVCF室UPS整備工事（電池交換含む）（平成20年3月）
 - ⑯ E棟地下2階電気室特高中央監視設備用UPS装置整備工事（電池交換含む）
（平成20年3月）
 - ⑰ 中央材料室超音波洗浄機増設・更新に伴う附帯設備工事（平成19年12月～平成20年2月）
 - ⑱ 医療用ガス設備整備工事（平成20年2月）
- (10) 医療安全管理
- ① リスクマネジメント委員会、フロアリスクマネージャー会議、医療安全運営会議等医療安全管理に関わる委員会を定期開催し、医療問題発生防止並びに医療安全推進活動を実践した。（通年）
 - ② 医療安全推進室の副室長を2名体制にし、新たな医療安全管理者を配置した。
（平成19年4月1日）
 - ③ 全ての教職員や委託職員に対し、携帯版リスクマネジメントマニュアルを配布した。
（平成19年4月1日）
 - ④ 医薬品安全使用のための業務手順書を制定した。（平成19年6月25日）
 - ⑤ 医療法改正に伴う医療安全管理指針並びにリスクマネジメント関連規程の改訂と医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者を任命した。（平成19年7月1日）
 - ⑥ 医療問題発生報告書の発生源入力システム「SAFE MASTER」を導入した。
（平成19年9月）
 - ⑦ 医療機器の保守点検・安全使用に関する業務手順書を制定した。（平成19年9月1日）
 - ⑧ 「医療安全推進週間」を実施した。（平成19年11月5日～17日）
 - ・安全で安心な医療を推進するシンボル「みどりのリボン」を全ての教職員、学生、委託職員が着用した。
 - ・4病院合同リスクマネジメントシンポジウム等の教育・研修企画を実施した。
 - ・医療安全推進活動の報告と功労者を表彰した。
 - ・4病院合同災害対策訓練を実施した。
 - ・医療安全院内ラウンドを実施した。
 - ・臨床現場にて患者確認徹底の取り組みとしてスモールグループミーティングを開催した。
 - ⑨ 医療安全の推進と感染対策の更なる強化連携を目的に医療安全管理部を設立し、医療安全推進室に加え感染対策室を組織し、部長、室長、副室長をそれぞれ任命した。
（平成20年1月1日）
 - ⑩ 医療安全院内ラウンドを実施した。
 - ・全外来、病棟、手術部門、中央診療部門を対象にした院内ラウンド（通年）
 - ・附属病院間の相互ラウンド（各病院訪問2回、来訪2回、計12回）
 - ・私立医大病院間の相互ラウンド（訪問2回、来訪1回、計3回）
 - ⑪ 医療安全対策を周知徹底した。

- ・日本医療機能評価機構医療事故情報収集事業「医療安全情報」を周知徹底した。
(通年)

- ・入院予定及び手術予定患者の胸部X線検査の取扱いを徹底(平成19年6月)
- ・弾性ストッキング使用法の誤りによる皮膚障害防止対策(平成19年7月)
- ・チェストドレーンバッグの適正使用の徹底(平成19年7月)
- ・点滴の皮下漏出防止対策の注意喚起(平成19年7月)
- ・転倒・転落発生時の初期対応の徹底(平成19年9月)
- ・鎮静目的で使用する注射剤(ロヒプノール、ドルミカム等)の安全使用を徹底
(平成19年9月)

- ・ルート誤接続予防識別テープ運用の再徹底(平成19年9月)
- ・抗凝固薬・抗血小板薬の術前休薬基準の薬品追加(平成19年11月)
- ・安全な中心静脈カテーテル挿入の徹底(平成19年11月)
- ・手術に関わる安全管理規程の遵守(平成19年12月)
- ・病棟薬剤師による持参薬管理運用を開始(平成20年2月)
- ・薬品・医療材料の使用期限確認を徹底(平成20年3月)
- ・バクスターインヒューザーの適正使用を徹底(平成20年3月)

⑫ 私立医科大学病院医療安全推進連絡会議の事務局業務を担当した。(通年)

⑬ システム工学に基づいた医療安全分析協同研究に参画した。(通年)

(11) 院内感染対策

① 分院との連携確立

- ・4病院合同の感染対策委員会の開催と感染対策担当者を対象とした勉強会を開催した。
- ・本院感染担当者(医師・看護師)による分院への定期的なラウンドを実施した。

② 感染制御チームによるラウンドを実施した。

- ・薬剤耐性菌検出患者に対して毎週実施。
- ・血液培養要請患者に対して毎週実施。
- ・集中治療部門(ICU、NICU、PICU)に対して月2回実施。

③ 教育啓蒙活動の実施

- ・セミナーの開催(計19回)

④ 職業感染対策の強化

- ・小児ウイルス性疾患の対策として40歳以下の在職者に対する抗体価検査(麻疹、風疹)の実施。(対象者約1,200名)

⑤ 問題発生部署への介入

- ・整形外科手術部位感染(SSI)の増加、NICUにおける緑膿菌検出の増加に対して介入を行い、改善を図った。

⑥ 感染対策室の設置

- ・院内感染対策の推進を図るため、感染対策室が設置された。(平成20年1月1日)

(12) エイズ診療中核拠点病院の指定を受けた。(平成19年8月1日)

(13) 保険関係承認・届出関係

① 定例の東京社会保険事務局主催の説明会にて、「届出医師等の変更」及び「変更は無いが届出よりかなりの時間を経過しているもの」について、改めて施設基準を届出するよう説明があり、現在届出しているすべての施設基準について確認を行い、施設基準の届出を行なった。(平成19年7月31日)

② 新生児特定集中治療室管理料(平成19年12月1日)※NICU3床増床に伴い届出

③ 新生児入院医療管理加算(平成19年12月1日)※GCU3床増床に伴い届出

(14) 患者支援・医療連携センター

平成19年6月1日付で常喜達裕診療医長(脳神経外科)を副センター長として任命した。
主な活動内容は下記の通りである。

- ① 退院後フォローアップのための電話訪問を開始した。
 - ② 後方支援医療機関リストを作成した。
 - ③ 近隣医療機関への戸別訪問を実施した。
 - ④ セカンドオピニオンの受付において画像診断・病理検査データの事前確認を開始した。
- (15) 診療体制の整備
- ① スポーツクリニックの外来名称を「スポーツ・ウェルネスクリニック」に変更した。
(平成19年4月1日)
 - ② オーダリングシステムを導入した。(平成19年5月2日)
 - ③ 各種検査の説明を行う窓口としてグリーンカウンター（検査説明窓口）を設置した。
(平成19年5月2日)
 - ④ 血液・腫瘍内科と臨床腫瘍部を統合し「腫瘍・血液内科」を開設した。
(平成19年7月2日)
 - ⑤ 産婦人科外来を血液浄化部跡地に移転し、名称を「ウイメンズクリニック（婦人科）」に変更した。(平成19年7月30日)
 - ⑥ 院内がん登録システムを導入し、院内がん登録を開始した。(平成19年9月1日)
 - ⑦ NICU・GCUをそれぞれ3床増床した（合計NICU9床・GCU18床）。
(平成19年11月1日)
 - ⑧ 心臓外科を移転し、「循環器・心臓外来（循環器内科・心臓外科）」を開設した。
(平成19年11月27日)
 - ⑨ 治験管理室を心臓外科外来跡地に移転し、名称を「臨床試験支援センター」に変更した。
(平成20年2月22日)
- (16) 患者サービス
- ① 待ち時間の有効利用を目的として、外来診察待ち患者用PHSの運用を開始した。
(平成19年12月10日)
 - ② 大学後棟1階にコンビニエンスストア「ローソン」を設置した。(平成20年3月3日)
 - ③ 入院患者向けフロアコンサート
 - 1. 日 時：平成19年7月18日（水）午後3時半～4時半
演 者：東京都交響楽団（5名）
 - 2. 日 時：平成19年12月8日（土）午後4時～5時 演 者：本学合唱部
 - 3. 日 時：平成19年12月19日（水）午後4時～5時 演 者：原田 真二さん（歌手）
 - 4. 日 時：平成19年12月20日（木）午後4時～5時 演 者：久保木イシ子さん（歌手）
 - ④ 患者向け広報誌「すこやかインフォメーション」第11号（平成19年4月）第12号（平成19年7月）第13号（平成19年10月）第14号（平成20年1月）を発刊した。
 - ⑤ 「愛宕山みんなの健康教室」を開催した。※NHK放送博物館と共催
 - 1. 日 時：平成19年6月23日（第10回）参加者83名
 - 2. 日 時：平成19年10月6日（第11回）参加者68名
 - 3. 日 時：平成20年1月26日（第12回）参加者53名
 - 4. 日 時：平成20年3月15日（第13回）参加者56名
- (17) 講演会、シンポジウムの開催について
- ① 4病院合同リスクマネジメントシンポジウム（合計3回開催）
 - 1. 日 時：平成19年7月5日 18:00～19:30 テレビ会議システム
テーマ：『転倒・転落防止に対する取り組み』（柏病院主催）
 - 2. 日 時：平成19年11月5日 18:00～19:40 テレビ会議システム
テーマ：医療安全の教育
講演者：虎の門病院泌尿器科 小松 秀樹部長
 - 3. 日 時：平成20年3月11日 18:00～19:30 テレビ会議システム
テーマ：患者サービスの視点から取り組む医療安全活動について（青戸病院主催）

- ② リスクマネジメント基礎研修会
日 時：第1回平成19年4月23日 第2回5月17日
第3回10月16日 第4回平成20年1月17日 何れも18:00~19:00
テーマ：リスクマネジメント総論、携帯版リスクマネジメントマニュアル説明
- ③ 初期臨床研修医オリエンテーション
日 時：平成19年4月2日 午後2時10分から午後3時45分
- ④ 薬剤・感染セミナー
第1回 日 時：平成19年10月4日 午後6時から午後7時20分
テーマ：『医療法改正について』、『薬剤の血管外漏出』、『食中毒について』
第2回 日 時：平成20年2月19日 午後6時から午後7時30分
テーマ：危ない薬「イノバン」、針刺し事故と感染症の恐れ
- ⑤ 4病院合同慈恵医大褥瘡セミナー
日 時：平成19年11月7日 午後6時から午後7時30分
テーマ：『超音波による褥瘡進達度の診断』等
講 師：田島 文博教授（和歌山県立医科大学リハビリテーション医学）
- ⑥ 医療安全推進活動の報告
日 時：平成19年11月14日 午後6時から午後7時30分
報告内容：鏡視下手術トレーニングコース、慈恵 ICLS・BLS コース、医療安全教育ワー
クショップ
- ⑦ 感染対策セミナー
第1回 日 時：平成19年11月20日 午後6時から午後7時30分
第2回 日 時：平成20年3月24日 午後6時から午後7時30分
- ⑧ リスクマネジメントセミナー
日 時：平成20年2月28日 午後6時から午後8時
テーマ：『個人情報保護法』
- ⑨ 暴力対策セミナー
日 時：平成20年3月5日 午後6時から午後7時30分
- ⑩ 派遣・委託職員リスクマネジメント研修会
第1回 日 時：平成19年12月20日 午前11時30分から午後12時10分
第2回 日 時： " 午後5時10分から午後5時50分
第3回 日 時：平成20年2月27日 午前11時30分から午後12時10分
第4回 日 時： " 午後5時から午後5時40分
- ⑪ 医療安全教育ワークショップ
日 時：平成19年4月15日、8月19日、9月16日、平成19年1月13日
何れも午後1時から午後5時
- ⑫ 医療機器安全使用のための講習会（延べ15回開催）
- (18) 慈恵 ICLS コース，慈恵 BLS コース
- ① 心肺停止患者に対する適切な救急蘇生の手技教育「慈恵 ICLS コース」（年間5回）
日 時：平成19年5月27日（日）8:30~18:00（青戸病院）
日 時：平成19年7月29日（日）8:30~18:00（本院）
日 時：平成19年9月23日（日）8:30~18:00（第三病院）
日 時：平成19年11月25日（日）8:30~18:00（本院）
日 時：平成20年1月27日（日）8:30~18:00（柏病院）
- ② 初期心肺蘇生術の講習会「慈恵 BLS コース」を年間22回開催した。
- (19) 鏡視下手術トレーニングコース
鏡視下手術を行う外科系医師の育成、認定を行う独自の制度である鏡視下手術トレーニングコース認定試験を実施した。（STEP 1 計3回，STEP 2 計3回）

- (20) 東京消防庁から救急救命士の気管挿管における病院実習の依頼があり、1名の受け入れを行った。(平成19年10月～12月)
- (21) 東京都赤十字血液センターによる献血が実施された。献血者69名(申込者数103名)
(平成20年2月4日(月))
- (22) 慈恵医大晴海トリトニッククリニック(所長:阪本要一)
平成19年度の患者数実績は、1日平均外来患者数143.1人(昨年比-3.2人)、うち健診は26.7人(昨年比+2.9人)である。

(2) 青戸病院（院長：伊藤 洋、副院長：吉田和彦、栗田 正、事務部長：横山秀彦）

(1) 病床利用率

平成19年度の病床利用率は稼働床375床（平成20年3月より352床に変更）に対して81.6%、平均在院日数は12.3日であった。

(2) 患者紹介率

平成19年度の患者紹介率は医療法で46.0%、保険法で43.4%であった。

(3) 患者サービス

- ① 平成19年4月1日より、患者サービス向上を目的として、8時30分からの初診受付開始時間を8時に繰上げ変更した。また、入退院受付についても9時の開始時間を8時45分に変更した。
- ② 平成19年6月23日、教職員有志によるフロアコンサートを開催した。
- ③ 平成19年10月13日、音楽部学生によるフロアコンサートを開催した。
- ④ 平成19年12月22日、教職員有志によるフロアコンサートを開催した。
- ⑤ 平成20年3月29日、教職員有志によるフロアコンサートを開催した。

(4) 医療連携

- ① 平成19年4月、東京都からの受託事業である、区東北部糖尿病医療連携検討会の座長（糖尿病・代謝・内分泌内科 蔵田診療部長）及び事務局を継続受託した。
- ② 平成19年5月14日、患者支援 医療連携センターが開設され、在宅医療相談室、ソーシャルワーカー室、医療連携室を集約し活動を開始した。
- ③ 平成19年7月～9月にかけて、紹介元医療機関訪問を実施した。（紹介医療機関70件、新規医療機関20件、合計90件）
- ④ 平成19年10月1日より、紹介元医療機関サービスとして、午後4時までのFAX予約受付時間を平日午後7時まで延長した。

(5) 青戸病院リニューアル

- ① 平成19年4月14日・15日、青戸病院リニューアルタスクフォースの診療部会議合宿集中検討会を実施した。参加者数31名 於マホロバマインズ三浦
- ② 平成19年5月23日、学内横断的タスクフォース、青戸病院リニューアルタスクフォースの中間報告会を開催した。
- ③ 平成19年6月26日、青戸病院建替えについて、医師への報告会を開催した。
- ④ 平成19年6月29日、青戸病院建替えについて、近隣住民への説明会を開催した。
- ⑤ 平成19年7月13日、青戸病院建替えについて、職員への報告会を開催した。
- ⑥ 平成20年1月8日、青戸病院建替え基本計画について、院内報告会を開催した。
- ⑦ 平成20年2月23日、青戸病院リニューアルタスクフォースフェーズⅢのキックオフミーティングを開催した。

(6) 指導・監査

- ① 平成19年6月18日～23日の期間、適正医療推進週間とし、適正保険診療に関する講演会、個別指導事項の改善状況の確認、カルテの院内点検等を実施した。
- ② 平成19年10月29日、東京社会保険事務局並びに東京都福祉保健局による個別指導が実施された。

- ③ 平成19年12月19日、東京都福祉保健局医療政策部医療安全課による放射線施設の立ち入り検査があった。

(7) 防火・防災

- ① 平成19年7月30日、別館3階3D病棟において第1回防火訓練を実施した。
- ② 平成19年11月2日、本田消防署管内での自衛消防隊訓練審査会が開催され、青戸病院隊が優勝した。
- ③ 平成19年11月13日、4病院合同防災シンポジウムを開催した。
- ④ 平成19年12月1日、大規模災害を想定したトリアージ訓練を実施した。
- ⑤ 平成20年3月6日、別館4階4D病棟において第2回防火訓練を実施した。

(8) 病床運用

- ① 平成20年1月21日より、4A・4C病棟について看護部による病床管理が開始された。また、3月17日からは3C・3E病棟が追加された。
- ② 平成20年2月10日～24日、4B・4C病棟の3人室（4室）へ個室ユニット（個室）、6人室（4室）へ準個室ユニット（4人室）を設置する工事が施工された。これに伴い、有差額床が26床から46床に増床され、稼動病床数を375床から352床に変更した。

(9) 医療安全推進

- ① 平成19年5月19日、10月27日、医療安全教育ワークショップを開催した。
- ② 平成19年7月5日、4病院リスクマネジメントシンポジウムを開催した。
- ③ 平成19年11月5日～17日、医療安全週間を実施した。
- ④ 平成19年11月5日、4病院リスクマネジメントシンポジウムを開催した。
- ⑤ 平成20年1月31日、院内暴力への対応の講演会を開催した。
- ⑥ 平成20年3月11日、青戸中学校で3年生を対象としたBLS+AED講習会を開催した。
- ⑦ 平成20年3月11日、青戸病院主催の4病院リスクマネジメントシンポジウムを開催した。

(10) 成医会青戸支部例会開催

- ① 平成19年6月16日（土）第98回青戸支部例会
- ② 平成19年12月15日（土）第99回青戸支部例会

(11) 青戸病院公開カンファレンス開催

- ① 第10回 平成19年4月25日（水）担当科：消化器・肝臓内科、内視鏡部
- ② 第11回 平成19年6月27日（水）担当科：糖尿病・代謝・内分泌内科
- ③ 第12回 平成19年10月17日（水）担当科：神経内科、耳鼻咽喉科
- ④ 第13回 平成20年2月27日（水）担当科：循環器内科

(12) 青戸病院公開健康セミナー開催

- ① 第21回 平成19年6月2日（土）「困っていませんか？ めまい、耳鳴り、目の病気」
- ② 第22回 平成19年11月9日（金）「ストップ！ ザ肥満！ 太りすぎは万病のもと」

(13) メディカルカンファレンス

- 第58回 平成19年6月16日（土）
「青戸病院における救急医療の現状」

(14) 症例検討会（CPC）開催

- ① 第27回 平成19年7月12日（木）担当科：腎臓・高血圧内科
「陳旧性心筋梗塞、洞不全症候群にてペースメーカー装着あり、徐々に悪化した透析導入に至った80歳男性」
- ② 第28回 平成19年9月27日（木）担当科：循環器内科
「右心不全・慢性肺高血圧症経過中、急死した一例」
- ③ 第29回 平成19年11月26日（月）担当科：小児科
「けいれん重積にて発症し、脳死状態に至った2歳児」
- ④ 第30回 平成20年2月18日（月）担当科：総合診療部
「ANCA関連血管炎疑いで経過中、脳出血にて急死した一例」

- ⑤ 第26回 平成20年3月19日（水）担当科：神経内科
「クロイツフェルト・ヤコブ病に、MRSA肺炎を併発して死亡した一例：頭部局所解剖」

(15) 工事関係

- ① ナースコールポケベル交換工事 平成19年8月完了
② 本館2階手術部器材室洗浄設備移設に伴う付帯工事 平成20年3月完了

(3) 第三病院（院長：坂井春男、副院長：伊藤文之、根津武彦、中村 敬、事務部長：文司安彦）

- 平成19年 4月19日 東京都市区町村不在者投票
- 平成19年 4月23日 森田療法センター行政立入検査
- 平成19年 5月19日 森田療法センター開設記念式典
- 平成19年 5月24日 第三病院医療連携フォーラム「薬剤による血液障害」
- 平成19年 5月26日 こまえ市民大学講座「神経症（不安障害）と森田療法」
- 平成19年 5月31日 青戸病院学内横断的タスク・フォース活動報告会 TV 会議
- 平成19年 6月 6日 第三病院認定看護師オープン講座－「流行性ウィルス感染症（麻疹を中心に）」
- 平成19年 6月 8日 第三病院リスクマネジメント・シンポジウム「医療事故事例と紛争防止」
- 平成19年 6月 9日 第26回慈恵医大第三病院公開健康セミナー「C型肝炎と肝臓癌」
- 平成19年 6月12日 日赤献血実施
- 平成19年 6月12日 (株)小田急バス狛江営業所防災訓練応援出動
- 平成19年 6月16日 医療の安全管理と倫理教育ワークショップ
- 平成19年 6月27日 第1・第4水曜日ヨガ教室開始
- 平成19年 6月29日 第41回医療セミナー「森田療法とはどういう治療法か」
- 平成19年 6月30日 こまえ市民大学講座「紫外線と肌の健康－10歳若返り法－」
- 平成19年 7月 5日 4病院合同リスクマネジメント・シンポジウム TV 会議「転倒・転落防止に対する取り組み」
- 平成19年 7月 6日 第101回 成医会第三支部例会ポスター発表、特別講演会
- 平成19年 7月 7日 第三病院七夕コンサート開催
- 平成19年 7月11日 第三病院 BSC 説明会開催
- 平成19年 7月18日 第42回医療セミナー「2007第三病院夏の BigDebate 新診療部長が熱く語るスタッフも患者も満足のニュー第三病院に向けて」
- 平成19年 7月19日 第三病院認定看護師オープン講座－「感染経路別予防策と防護用具の適正使用」
- 平成19年 7月20日 狛江救急業務連絡会
- 平成19年 7月26日 参議院議員不在者投票
- 平成19年 7月27日 第三病院納涼会
- 平成19年 9月12日 狛江消防署より救急感謝状授与
- 平成19年 9月13日 第三病院認定看護師オープン講座－「結核の基礎知識」
- 平成19年 9月15日 調布市内・近隣大学等公開講座「胆石症といわれたら－その予防と対策－」
- 平成19年 9月18日 第43回医療セミナー「医療従事者が知っておきたい介護保険の基礎知識」
- 平成19年10月 1日 面会時間・面会証変更運用開始
- 平成19年10月10日 調布市内・近隣大学等公開講座「排尿障害－安易に老化現象としてかたづけられないで－」
- 平成19年10月16日 第三病院認定看護師オープン講座－「インフルエンザ 予防編」
- 平成19年10月18日 第13回第三病院医療連携フォーラム「油断できない皮膚疾患」
- 平成19年10月20日 第27回慈恵医大第三病院公開健康セミナー「知っておきたい薬の知識－ジェネリック薬品と保険料の動向－」

平成19年10月27日 JAZZ コンサート (JAZZ IN HOSPITAL) 開催
 平成19年11月 3日 ホスピタル・フェア・in JIKEI 開催
 平成19年11月 5日 4 病院合同リスクマネジメント・シンポジウム TV 会議「医療安全の教育」
 平成19年11月 6日 防災訓練実施
 平成19年11月 7日 調布市内・近隣大学等公開講座「骨粗鬆症の予防と対策」
 平成19年11月13日 4 病院合同防災訓練 TV 会議
 平成19年11月14日 自衛消防訓練審査会 優秀賞受賞
 平成19年11月14日 医療安全推進活動の表彰と活動報告会 TV 会議
 平成19年11月17日 医療の安全管理と倫理教育ワークショップ
 平成19年11月27日 第三病院認定看護師オープン講座－「感染腸炎にご注意」
 平成19年11月28日 日赤献血実施
 平成19年12月 7日 第102回 成医会第三支部例会ポスター発表、特別講演会
 平成19年12月 7日 第三病院忘年会
 平成19年12月 8日 クリスマス・ロビーコンサート開催
 平成19年12月29日 高次元医用画像工学研究所へ凍結マンモス（リユーバ）検査搬入
 平成20年 1月12日 劇団俳優座有志による出前ミュージカル開催
 平成20年 1月22日 第三病院認定看護師オープン講座－「インフルエンザ発症時 対応編」
 平成20年 1月23日 第三病院リスクマネジメント・シンポジウム「リスクを減らす私達の工夫」
 平成20年 2月22日 第三病院診療部懇親会
 平成20年 2月26日 東京都による放射線立入検査
 平成20年 2月29日 転倒転落対策の検討会 TV 会議
 平成20年 3月 1日 第28回慈恵医大第三病院公開健康セミナー「脳卒中、なりやすい人 なりにくい人」
 平成20年 3月 7日 第三病院総合防災訓練実施
 平成20年 3月11日 4 病院合同リスクマネジメント・シンポジウム TV 会議「患者サービスの視点から取り組む医療安全活動について」
 平成20年 3月25日 DPC 講演会
 平成20年 3月29日 研修医研修修了式

- (4) 柏病院（院長：久保政勝、副院長：小林進、清水光行、内田満 事務部長：須賀一元）
- 1) 平成19年度の一日平均入院患者数は533名で病床利用率は使用床598床に対して89.1%、1人平均在院日数は14.7日であった。
 - 2) 平成19年4月1日 指定自立支援医療機関（精神通院医療）の指定を受けた。（新規）
〔障害者自立支援法第59条第1項の規定による〕
 - 3) 平成19年4月25日 診療用高エネルギー放射線発生装置を設置した。
 - 4) 平成19年6月6日 難病相談・支援センター事業の一環として、平成19年度第1回吸引実技研修会を開催した。
 - 5) 平成19年6月16日 第10回地域医療連携フォーラムを開催した。
 - 6) 平成19年6月19日 大規模災害研修会を開催した。
 - 7) 平成19年6月20日 第22回柏病院CPCを開催した。
 - 8) 平成19年6月20日 第21回フロアーコンサートを開催した。
 - 9) 平成19年7月7日 第36回成医会柏支部例会を開催した。
 - 10) 平成19年7月13日 第22回フロアーコンサートを開催した。
 - 11) 平成19年7月24日 納涼盆踊り大会を開催した。
 - 12) 平成19年7月25日 大規模災害対策訓練を開催した。

- 13) 平成19年 9 月28日 柏市自衛消防隊競技会が開催された。
- 14) 平成19年10月 6 日 第11回地域医療連携フォーラム・市民公開講座が開催された。
- 15) 平成19年10月10日 千葉県柏保健所による医療監視が行われた。
- 16) 平成19年10月16日、31日 大規模災害トリアージ訓練研修会を開催した。
- 17) 平成19年10月27日 第23回フロアーコンサートを開催した。
- 18) 平成19年11月 1 日 セカンドオピニオン外来を開設した。
- 19) 平成19年11月21日 第23回柏病院 CPC を開催した。
- 20) 平成19年12月 8 日 第37回成医会柏支部例会を開催した。
- 21) 平成19年12月 5 日 東葛北部地域難病相談・支援センター事業の一環として、平成19年度第2回吸引実技研修会を開催した。
- 22) 平成20年 1 月15日 保険診療講習会を開催した。
- 23) 平成20年 1 月18日 救急病院等の認定及び告示を更新した。
- 24) 平成20年 2 月13日～14日 財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価訪問審査を受審した。(更新)
- 25) 平成20年 3 月 8 日 第 4 回医療連携懇談会を開催した。
- 26) 平成20年 3 月末日付で、女性専用外来を廃止した。
- 27) 保険関係承認・届出関係
- ① 平成19年 6 月 6 日 4 A 病棟カンファレンスルームと授乳室との相互交換変更許可を取得、平成19年 8 月 3 日使用許可を得た。
 - ② 平成19年12月 1 日 褥瘡ハイリスク患者ケア加算の算定を開始した。
 - ③ 平成20年 1 月10日 本館 1 階放射線部予備室を管理室・倉庫への改修変更許可を取得、および使用許可を得た。
 - ④ 平成20年 2 月 8 日 厚生労働省より地域がん診療連携拠点病院の指定(新規)を受けた。(4月1日付指定)
- 28) 医療連携関係
- ① 平成19年 6 月22日 第22回症例検討会(CPC)「ネフローゼ症候群、クッシング症候群を伴った縦隔腫瘍の一例」を開催した。
 - ② 平成19年 6 月16日 第10回地域医療連携フォーラム市民向け公開健康講座「健康診断結果を日常生活にいかすために！」と題して慈恵柏看護専門学校講堂にて開催した。
 - ③ 平成19年10月 6 日 第11回地域医療連携フォーラム市民向け公開健康講座「最近の感染症をめぐって～ノロウィルス、インフルエンザウィルスの流行に備える」と題して慈恵柏看護専門学校講堂にて開催した。
 - ④ 平成19年11月21日 第23回症例検討会(CPC)「呼吸困難を呈した若年者胸部病変の2例」を開催した。
 - ⑤ 平成20年 3 月 8 日 第 4 回医療連携懇談会「医療機関におけるクレーム対応」を開催した。
 - ⑥ 画像診断検査の Web による予約登録は新たに 1 施設が追加となり、10施設で実施している。
- 29) 工事関係
- ① バス停部路面アスファルト補修 平成19年 4 月完了
 - ② 病棟便器消毒器(ベッドパンウォッシャー)更新 平成19年 4 月完了
 - ③ A B 棟病室カーテンレール設置変更 平成19年 5 月完了
 - ④ 栄養部厨房改修 平成19年 7 月完了
 - ⑤ A B 棟ナースステーション準備室室内整備 平成19年 8 月完了
 - ⑥ 病棟フロアー空調設備更新 平成19年10月完了
 - ⑦ 病棟ファンコイル更新 平成19年10月完了
 - ⑧ 6 A B 病棟個室整備 平成19年12月完了

- ⑨ 診療棟予備室用途変更に伴う改修
- ⑩ 洗面台自動水栓設置
- ⑪ 空調設備用ポンプ類インバーター導入

平成20年1月完了
 平成20年1月完了
 平成20年3月完了

30) 病床数および外来

① 病床数 (使用床)

(平成20年4月1日現在)

個		室	55
2	人	室	42
3	人	室以上	501
合		計	598
比率(内科系:外科系)			36:64

② 病床数 (届出床)

(平成20年4月1日現在)

個		室	76
2	人	室	64
3	人	室以上	500
合		計	640
比率(内科系:外科系)			36:64

1) 1日平均外来患者数

(平成19年度)

外	来	患	者	数	1,675
---	---	---	---	---	-------

(5) 総合健診・予防医学センター

センター長 錢谷 幹男
新橋健診センター 所長 和田 高士
晴海健診センター 所長 阪本 要一

(1) 19年度実績 (新橋健診センター)

年間受診者 15,830名

(内訳)

* 人間ドック 8,358名
* 入社健診 1,559名
* 定期健診 3,461名
* 特殊検診 910名
* 予防接種 982名
* その他 560名

(2) 契約企業対象の健康医学セミナーを毎年開催している。

平成19年度は、2月6日(水)に開催した。参加企業は65社で、参加人数は71名であった。講演内容は「特定健診診査・特定保健指導について」で、新橋健診センター・和田所長が講演した。

(3) 平成20年4月から特定健診診査・特定保健指導を開始する。

(6) 病床数および外来患者数

(1) 病床数 (使用床)

(平成20年4月1日現在)

	本 院	青 戸	第 三	柏	合 計
個 室	290	23	62	55	430
2 人 室	6	14	38	42	100
3 人 室 以 上	752	315	509	501	2,077
合 計	1,048	352	609	598	2,607
比率 (内科系 : 外科系)	42 : 58	42 : 58	49 : 51	36 : 64	

(2) 病床数 (届出床)

(平成20年4月1日現在)

	本 院	青 戸	第 三	柏	合 計
個 室	295	26	71	76	468
2 人 室	6	24	44	64	138
3 人 室 以 上	774	340	515	500	2,129
合 計	1,075	390	630	640	2,735
比率 (内科系 : 外科系)	42 : 58	42 : 58	49 : 51	36 : 64	

(3) 平成19年度診療実績

(平成19年度)

	本 院	青 戸	第 三	柏	晴海トリトン	合 計
一日平均外来患者数	2,922	1,049	1,457	1,675	143	7,246
一日平均入院患者数	909	304	519	533		2,265
利用率 (稼働床)	87.0	81.6	84.1	89.1		85.5
予算達成率	103.6	96.4	97.4	102.2	101.8	101.3
紹介率 医療法	48.8	46.0	38.6	59.7	10.6	
” 保険法	42.8	43.4	32.9	48.9	4.3	

6. 学術情報センター

学術情報センター長 兼平 千裕 (放射線医学) (平成19年4月より)
同 図書館国領分館長 小澤 隆一 (社会科学) (平成19年4月より)

1) 平成19年度統計 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

(1) 図書館

- | | |
|---------------|----------------------|
| ① 蔵書冊数 | 244,520冊 |
| ② 現在受入雑誌数 | 1,113種 (和738種、洋375種) |
| ③ 電子ジャーナル提供数 | 約3,700種 |
| ④ 館外貸出冊数 | 12,021冊 |
| ⑤ 他学との文献相互貸借数 | 貸出 7,114件 借受 4,003件 |
| ⑥ 複写サービス | 1,028,809枚 |
| ⑦ 情報検索サービス | 70,150件 (館内での記帳利用のみ) |

(2) 国領分館

- | | |
|-----------|-------------------|
| ① 蔵書冊数 | 89,597冊 |
| ② 現在受入雑誌数 | 394種 (和334種、洋60種) |
| ③ 館外貸出冊数 | 7,120冊 |

(3) 標本館

- | | |
|---------|---------------------|
| ① 標本数 | マクロ標本 1,732点 |
| | 顕微鏡標本 2,549点 |
| ② 視聴覚資料 | ビデオ・プログラム 1,730セット |
| | スライド・プログラム 601セット |
| | 16mm フィルム 37セット |
| | コンピュータ・ソフトウェア 27セット |
| | 語学プログラム 204セット |
| | その他 79セット |

(4) 史料室

見学者数 567名 (学内185名、学外382名)

(5) 写真室

- | | |
|-------------------|---------------|
| ① 撮影・スライド制作サービス | 85件 (2,457枚) |
| ② X線写真複製サービス | 303件 (2,960枚) |
| ③ ビデオ編集サービス | 63件 (256時間) |
| ④ コンピュータによるスライド作成 | 18件 (816枚) |
| ⑤ カラープリント出力サービス | 71件 (2,177枚) |
| ⑥ 35mm スライド入力サービス | 49件 (5,354枚) |

2) 主な事項

(1) 医学部学生演習

医学科1年生と2年生を対象にした基礎的な情報検索演習 (医学総論) と、医学科3年生と4年生の「臨床疫学コース」の演習を担当しているほか、看護学科1年生の図書館利用指導を担当している。

(2) ネットワークを介した情報提供

医学文献データベースであるMEDLINEと医学中央雑誌の新規データについて電子メールによる定期配信サービス (AutoAlert サービス) を行っているほか、新聞4紙から医療関係の記事の見出しを電子メールで配信するサービスも行っている。

- (3) 共同目録への協力
日本医学図書館協会が発行する共同目録に対する当館の所蔵情報の報告を、国立情報学研究所（NII）のデータを直接更新する方法に変更し、効率化を促進した。
- (4) 電子ジャーナルリモートアクセス
電子ジャーナルへ学外からアクセス（リモートアクセス）するサービスを、一部のパッケージについて開始した。
- (5) 蔵書点検
毎年夏に行っている蔵書点検で初めて図書館システムの機能を利用でき、例年よりも作業時間を短縮できた。
- (6) 東京慈恵会医科大学『教育・研究年報2006（第26号）』および『Research Activities 2006』の編集担当
標記各年報の原稿を大学ネットワーク経由で収集し、編集・出版の作業を担当した。
- (7) 医学論文書きかた講習会の開催
Jikeikai Medical Journal 編集委員会と東京慈恵会医科大学雑誌編集委員会の共催で、5月18日および5月21日に岡崎真雄准教授（学術情報センター）による英語で論文執筆や学会発表をする際の注意点を、また6月12日（火）岡崎春雄教授（Mayo Clinic 名誉教授）に「English Coaching for Frustrated Japanese : Demonstration and Practice」と題して自身の経験に基づく学習方法を講演いただいた。なお、この講習会の英語名を「JMJ Lectures on English Communication」と定めた。
- (8) 教材・研究資料の作製支援
学内教職員、学生、同窓生を対象に、静止画及び動画の撮影サービスをはじめ、アナログ／デジタル写真の作製、各種加工、スライド作製、ビデオ編集サービスを行っている。また35mm スライドをデジタルデータ化するサービスも行っており、パワーポイントファイル作製支援をしている。
- (9) レントゲンフィルムの複製
教育・研究の資料として、また他病院への診療情報提供、裁判所等への提出資料、病院保管に用いるレントゲンフィルムのコピーを行っている。
- (10) 標本館総合展示の開催
平成19年度は大学夏季セミナーより題材を求め下記の日程においてパネル展示を開催した。
実施期間：平成19年11月26日（月）～11月30日（金）
テーマ：メタボリックシンドロームをめぐる最新の話題－ここまで求められる診断と治療
- (11) 情報技術支援業務
平成15年度から、学事課・システム課・学術情報センターの職員により情報技術支援業務（テレビ会議等）を継続担当している。

7. 教育センター

教育センターの目的は、卒前教育、卒後教育、生涯学習の連続性の中で、大学、附属病院を横断する教育活動を支援・実施することである。7月1日からは、鏡視下トレーニング室関係業務が病院管理課より移管がなされた。

平成19年度の本センター活動については、大学の基本方針、運営計画に基く活動として下記事業を実施した。

1) 医療安全管理の推進においては、医療の安全教育ワークショップを平成19年度には、本院4回(384名)、青戸病院2回(136名)、第三病院2回(175名)、柏病院2回(165名)合計10回、860名の参加を得て、参加者の感想文を分析して理事会等へ報告を行なった。また、本学へ派遣されている社員の参加も可能として、19年度は4名の参加があった。

また、本センターが主管しているテレビ会議運営委員会主導のもと、テレビ会議システムを利用して、4附属病院を繋いで、テレビ会議にて4病院リスクマネジメントを年2回(7月、3月)支援した。

2) 人材育成システムの構築については、教員評価委員会(渡邊 直熙委員長)と連携し当センターが主管している教員評価データベース委員会(福島 統委員長)において、データベース開発を行なった。3年間の開発を経て、本学として初めての本格的な教員実績データベースが構築できたことと、その構築に当たって主管として開発企業、学内担当部署との調整等を図り教員の前に提示できた。

3) 広報活動の充実においては、本センターが主管している公開講座推進委員会主導のもと、4附属病院の独自性、自主性を保ちつつ国の私学助成の経常費補助金を利活用して、青戸病院公開健康セミナー2回(6月、11月)、第三病院公開健康セミナー2回(6月、10月)、地域医療連携フォーラム2回(6月、10月)、他地方公共団体やNHK放送博物館等共催で、公開講座を開催支援した。

今年は、看護学科や救急医学講座と、放射線医学講座というように、裾野が広がってきた。

これらの取り組みについては、大学の公開講座ホームページに掲載し、学内から情報の提供を広く呼びかけ情報発信も行なっている。

また、昨年度から取り組みを行なうこととした日本学術振興会が文部科学省の科学研究費補助金にて行われた内容を、中学生・高校生を対象に、研究者がプロデュースする丸1日の体験・実験・講演などを通して、いろいろな疑問に答えるとともに、現在、活躍されている研究者と大学の最先端の研究成果の一端を見る、聞く、触れることで、学術と日常生活との関わりや、科学(学術)がもつ意味に対する理解を深めてもらう機会を提供することを目的としている「ひらめき☆ときめきサイエンス～ようこそ大学の研究室～KAKENNHI」の下記1事業に組み、昨年度に引き続き好評を得た。

- ① 分子生物学講座(松藤 千弥教授実施担当代表者)では、小中高の参加者36名で、「遺伝子の暗号～DNA30億分の1の違いを調べてみよう」8月2日(木)

平成19年度公開講座実績

公開講座名	開催日	参加人数	主催・場所
〈介護保険セミナー〉マイケアプラン作成と自己負担算出	19年4月21日	市民一般 7名	国領校
神経症（不安障害）と森田療法	5月26日	市民一般 74名	狛江市西河原公民館
困っていませんか？めまい、耳鳴り、目の病気	6月2日	市民一般204名	亀有地区センター
市民に必要な CPR（心肺蘇生）と AED 使用法	6月9日	市民一般 11名	西新橋校
「C型肝炎と肝臓病」	6月9日	市民一般 51名	第三病院
「健康診断結果を日常生活に活かすために！」	6月16日	市民一般 67名	柏病院
「緑内障」「関節の痛みと関節周囲の痛み」	6月23日	市民一般100名	N H K 放送博物館
紫外線と肌の健康～10歳若返り法～	6月30日	市民一般 47名	狛江市西河原公民館
胆石症といわれたら－その予防と対策－	9月15日	市民一般 42名	調布市文化会館たづくり
腎臓病のはじまりから、透析、そして腎移植	9月29日	市民一般110名	西新橋校
最近の感染症をめぐって－ノロウィルス、インフルエンザの流行に備える－	10月6日	市民一般 58名	柏看護専門学校
排尿障害－安易に老化現象としてかたづけられないで－	10月10日	市民一般 71名	調布市文化会館たづくり
知っておきたい薬の知識－ジェネリック薬品と保険料の動向	10月20日	市民一般 29名	第三病院
骨粗鬆症の予防と対策	11月7日	市民一般 92名	調布市文化会館たづくり
ストップ！ザ 肥満！太りすぎは万病のもと	11月9日	市民一般120名	亀有地区センター
がん診療と放射線医	11月10日	市民一般132名	西新橋校
「歯の痛み・あごの痛み」 「耳からおこるめまい症」	20年1月26日	市民一般 53名	
市民に必要な CPR（心肺蘇生）と AED 使用法	2月16日	市民一般 7名	西新橋校
脳卒中、なりやすい人なりにくい人	3月1日	市民一般 44名	第三病院
〈介護保険セミナー〉 知っておきたい在宅医療と介護の話	3月15日	市民一般 32名	国領校
「慢性腎臓病と高血圧」 「脳卒中治療の最前線」	3月15日	市民一般 56名	N H K 放送博物館
「検査値と薬の理解」	3月29日	市民一般 80名	西新橋校

- 4) 特色ある教育・研究の推進においては、特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）の平成17年度採択事業と現代的教育ニーズ支援プログラム（現代 GP）の平成18年度採択事業推進を行なった。

また、平成19年度「地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム」（医療人 GP）の「テーマ2：臨床研究・研究支援人材の養成」に応募し、「プライマリケア現場の臨床研究者の育成」の課題にて、採択を受けた。

取組概要は下記の通りである。

(1) 取組の概要

医療全体におけるプライマリケア・地域医療の重要性がますます増大している。プライマリケアの医療現場では、大学病院とは質の異なった臨床上の問題が生ずる。例えば、common diseases の診療、在宅医療、地域医療サービス、一次予防、行動科学などである。実際に生じているこれらの問題を臨床研究のテーマとして挙げていくことは、大学病院では困難である。一方、大学病院には臨床研究やその基礎理論となる疫学の知識や技術の蓄積がある。そこで、プライマリケアで直面している問題を解決していくためには、地域のプライマリケアを担う医療者、医療機関と大学病院がネットワークを組み、お互いを補完することによって、直面している問題を妥当で効率的に解決していくシステムの構築が必要である。本取組では大学病院に、プライマリケアを担う医療者を対象に臨床研究の知識や技術を養うコースを構築し、プライマリケア現場での臨床研究の促進を図る。

医療人 GP とともに、平成19年度特色ある大学教育支援プログラム（特色 GP）の教育課程・教育方法の工夫改善を主とする取組以外の取組に応募し、「地域の教育力を活かす医療者教育」の課題にて、採択を受けた。

取組概要は下記の通りである。

東京慈恵会医科大学は、医療者教育を大学（教育研究機関）と大学附属病院（特定機能病院）のみで行うことはできないと考える。医療者教育には、学生が多様な患者さんと出会い、患者さんから学ぶ環境を整備する必要がある。本学はそのために、医療者教育に「地域」を活用することを実践してきた（Community-based Medical Education）。本学は、昭和61年度にわが国で最初に地域開業医へ学生を派遣する家庭医実習を導入し、その後も地域の教育力を活用する取組を続けている（地域中核病院、訪問看護ステーションなど）。しかし、地域の教育力を活かすにはそれを利用するだけではなく、地域医療者へ大学が教育 FD や生涯学習環境をも提供することも重要であると考え。大学の教育資源を積極的に地域医療者に還元することで地域医療実習での学生教育の質の向上が図られる。本取組は本学の地域・大学連携についての提案である。

- ① 卒前教育関係では、GKT（キングス大学）から、Dr. Elaine Gill と Dr. Michael Gill を招聘した。

（平成19年5月）

Dr. Elaine Gill より、キングス大学部でのコミュニケーション教育と Inter-professional Education の概要の説明があった。これらの教育は1年次から開始されること、医学、歯学、看護学、OT/PT、管理栄養士などの学生、合計1学年で1,300人が混在してのグループワークを行なうこと、2年時以降には臨床現場でのチームワークの学習環境を作っていることなどの説明があった。

Dr. Michael Gill からは英国の GP や老年医学の臨床では、医師、看護師だけでなく多くの職種が共同して患者ケアを行っているとの説明があった。なお、両名は本学内での講演だけでなく本学同窓の医療機関をも訪問し、日本の医療関係者とも意見交換を行なった。

- ② 地域医療関係では、GKT（キングス大学）から、Dr. Anne Stephenson を招聘した。
（平成19年10月）

Dr. Anne Stephenson より、英国では primary care は地域の General practitioner (GP) が担い、hospital care には GP の紹介が必要とされる明確な医療システムになっていることなど説明があった。

我が国では現在、地域医療が社会問題として論じられ、そのために数校の医学部の定員増加の政策も講じられている。また、このような情勢の中で、英国での primary care 教育について考えるために開催した。

5) 鏡視下トレーニングシステム

第44回大学法人運営会議（19年3月29日）において、鏡視下トレーニングコース関係業務の主管課を、附属病院管理課・医療安全推進室より、教育センターに移管することが了承され、7月1日付けにて移管を行い、STEP 1、STEP 2 について実施を行なった。

STEP 1

- 1回目：平成19年9月8日（土）受験者数16名：合格者数：11名
- 2回目：平成19年10月27日（土）受験者数20名：合格者数：17名
受講のみ1名（看護師）
- 3回目：平成20年1月26日（土）受験者数12名：合格者数：10名
受講のみ7名（看護師）

STEP 2

- 1回目：平成19年9月29日（土）受験者数8名：合格者数：6名
場 所：高次元医用画像工学研究所（第三病院）
- 2回目：平成19年12月9日（日）受験者数11名：合格者数8名
場 所：ジョンソンエンドジョンソン(株)エチコンエンドサージェリー研究センター
（福島県郡山市）
- 3回目：平成20年2月17日（日）受験者数15名：合格者数12名
場 所：タイコヘルスケアジャパン (株) オートスーチャートレーニングセンター
（静岡県富士宮市）

8. その他

1) 成医会

(1) 第124回成医会総会は、平成19年10月11日（木）・12日（金）の2日間にわたって開催された。

① 特別講演

羽野 寛教授（病理学）「肝臓の病理形態学－「小葉構造の改築」を中心に」

矢永 勝彦教授（外科）「肝癌の外科治療の進歩」

② 宿題報告

山田 昭夫教授（リウマチ・膠原病内科）「生物学的製剤による関節リウマチの治療」

須藤 正道准教授（細胞生理学、宇宙航空医学研究室）「宇宙航空医学－その特殊な研究方法－」

田井 久量准教授（呼吸器内科）「肺 Mycobacterium avium complex 症の臨床」

溝呂木ふみ准教授（腫瘍・血液内科）「C型肝炎ウイルス抗体陽性B細胞リンパ腫の臨床的研究」

③ シンポジウム

「慈恵医大における先端医療の展望」

司会 衛藤 義勝教授（小児科）

渡辺 直熙教授（熱帯医学）

1. 免疫療法と化学療法の併用による新たな癌治療

小井戸 薫雄（消化器・肝臓内科、臨床医学研究所）

2. クローン腎臓の開発と臨床応用

横尾 隆（腎臓・高血圧内科）

3. バイオリアクターによる3次元細胞培養系の医療への展開

松浦 知和（臨床検査医学）

4. 炎症治療戦略としてのナノメディシン

檜垣 恵（DDS 研究所）

5. 先端医療の現状と未来

衛藤 義勝（小児科学、DNA 医学研究所）

④ パネルディスカッション

「本学医療連携の現状と将来への展望」

司会 谷口 郁夫（循環器内科）

徳留 悟朗（腎臓・高血圧内科）

1. 本院患者支援・医療連携センター設立1年の実績と今後の目標

小松 和子（本院看護部）

2. メディカルソーシャルワーカーの役割と医療連携

鈴木亜都佐（患者支援・医療連携センター、ソーシャルワーカー室）

3. 入院患者の医療パスによる病病連携

常喜 達裕（脳神経外科）

4. 本学と品川区における医療連携の今後の推進を考えて

安澤 龍徳（品川区医師会）

5. 第三病院医療連携現状

池本 庸（第三病院）

6. 青戸病院リニューアルに伴う本院・他の分院との医療連携のあり方

栗田 正（青戸病院）

(2) 第1253回成医会例会は、平成20年2月21日（木）に行われ「病んでも健やかであり得ること」が講演のテーマとして選ばれた。司会は、田中 忠夫（成医会運営委員長）が務め、曾野綾子氏が講演し、最後に栗原敏成医会会長（学長）が謝辞を行った。

- (3) 第125回成医会総会については、平成20年10月9日（木）、10日（金）の2日間にわたって開催の予定。

2) 各種行事

- (1) 平成19年4月5日(木)、平成19年度医学科および看護学科入学式を挙行政した。
- (2) 平成19年8月6日(月)～8日(水)、宮崎県穆佐小学校学童2名、教諭2名の本学招待旅行が行われた。この行事は、昭和50年より始められ、今回で33回目となる。
- (3) 平成19年10月6日(土)、同窓会支部長会議・学術連絡会議が開催された。
- (4) 平成19年10月13日(土)、学祖高木兼寛先生の墓参を行った。
- (5) 平成19年10月20日(土)、卒業50周年を迎えた卒業生(昭32年)をお招きし、懇談の集いを開催した。
- (6) 平成19年10月28日(日)、第103回解剖諸霊位供養法会を増上寺において執り行った。
- (7) 平成20年1月31日(木)、川村将弘教授、栗原邦弘教授、衛藤義勝教授、井上聖啓教授、高橋知義教授を囲んでの退任記念パーティーが行われた。
- (8) 平成20年2月22日(金) 献体者遺族に対して文部科学大臣よりの感謝状伝達式を執り行った。
- (9) 平成20年3月7日(金)、第83回医学科、第13回看護学科卒業式を挙行政した。

3) 印刷物等の発行(広報課)(平成19年4月～平成20年3月)

- ① 法人誌「The JIKEI」の発行
平成19年4月に「The JIKEI 11号」を、平成19年11月には「The JIKEI 12号」を発行した。作成部数は2万部で、同窓、医学部父兄および120周年記念事業寄付者、医療連携病院、教職員に配布しているほか、各種説明会に使用している。
- ② 慈恵ニュース
平成19年5月に180号を、平成20年2月に181号を発行し教職員に配布している。
- ③ 大学広報
平成19年10月に18号を、平成20年2月に19号を発行し同窓、教職員に配布している。
- ④ 大学ガイド
大学広報委員会が主導となり、「平成20年度版大学ガイド」を平成19年6月に発行した。
- ⑤ 大学院ガイド
「平成20年度版大学院ガイド」については大学広報委員会および広報課が事務局となり、平成19年7月に刊行した。なお、この「大学院ガイド」の内容はホームページ上の「大学院ページ」と連動している。
- ⑥ 大学説明会案内ポスター
「大学ガイド」の作成に合わせ平成19年6月に平成20年度用大学説明会と入試日程のポスターを作成した。
各高等学校、予備校等をはじめ、同窓会長、支部長、学術連絡委員に郵送し広報に関するご協力を頂いている。
- ⑦ 大学ホームページ
大学及び附属病院に関する情報をホームページより発信している。
大学ホームページへのアクセスは年々増加し、平均月間アクセス件数は約110万ページビュー、平均月間訪問者数は約10万人を超える規模になった。
今年度は森田療法センターの紹介など診療に関するページの充実のほか、またサイト内検索ソフトを導入し、使いやすさの向上を図った。
- ⑧ イン트라ネット
大学・病院の最新情報を素早く共有するため、イントラネット上のホームページに情報を掲載している。今年度はトップページのデザインをリニューアルし、使いやすさの向上を図った。

- ⑨ オールユーザーメールの活用
イントラネットと併用し、オールユーザーメールを使用し大学・病院の最新情報を発信した。

〔付〕 1. 学校法人 慈恵大学 中期目標・中期計画・平成20年度事業計画

〔本学の理念・目的・使命〕

- 理念：医学・看護学の教育・研究とその実践を通して人類の健康と福祉に貢献する。
- 目的：質の高い医師と看護師の育成と臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- 使命：社会のニーズに応えることのできる医師・看護師・保健師の育成と医学・看護学研究を振興して人類の健康と福祉に寄与する。

〔本学が目指す将来像（ビジョン）〕

- 社会の共感を得て、国際的にも高い評価を受けることができる質の高い医科大学を目指す。

質の高い医学・看護学教育

- (1) 医学を深く理解し、豊かな人間性を具えた全人的な医学・医療を実践できる医師・看護師・保健師を育成するための特色ある卒前・卒後教育システムを構築する。
- (2) 4 附属病院の特徴を活かした多様な医師・看護師・保健師育成プログラムを策定する。
- (3) 看護学科と4看護専門学校は、協働して看護生涯学修の出発となる基礎能力の育成に組織的に取り組む。
- (4) 大学院教育の充実と改善を推進する。

本学の特色ある研究と臨床に還元できる研究の推進

- (1) 本学に継承されている特色ある研究を発展させる。
- (2) 疫学的臨床研究を推進するシステムを構築する。
- (3) 臨床を支える医学・看護学研究を推進する。
- (4) 先進医療を開拓するための医学研究を推進する。

質の高い医療の提供

- (1) 社会のニーズに応えることができる質の高い医療を実践できる附属病院を目指す。
- (2) 安心で安全な医療を提供できる医療システムを構築する。
- (3) 高度で先進的な医療を開発し実践する。
- (4) 医師、看護師としての技術を向上させるための取り組みを行う。
- (5) 附属病院の特色を活かして各附属病院の活性化と機能分化を図る。

130年記念事業

- (1) 130年記念事業を行う。130年史の刊行と、募金活動を行う。

〔基本方針〕

平成20年度の基本方針と重点施策

1. 法令遵守の徹底
 - ・教職員の法令遵守精神を向上させる。
2. 医療安全の推進
 - ・医療安全体制を検証し、より良い医療安全システムを構築する。
3. 質の高い医療人の育成
 - ・卒前教育の改善と充実を図る。
 - ・卒後教育を改善して研修医とレジデントの応募者増を図る。
 - ・大学病院連携型高度医療人養成推進事業に参画する。
 - ・看護学科・看護専門学校は、協働して卒業時の技術到達目標に関する評価を周知する。
4. 安定した財政基盤の構築
 - ・医療収入の増加と医療経費の削減を図る。
 - ・大学における経費の点検を行う。
 - ・機関別の中期財務計画を策定する。
 - ・収支状況の月次把握ができるようにする。
 - ・青戸病院、第三病院の収支構造の改善を図る。
5. 医学・看護学研究の推進
 - ・本学の各講座を中心に行われている特色ある伝統的研究と共に先進的研究を推進する。
 - ・研究推進のための競争的研究資金の獲得を目指す。
 - ・看護学修士課程申請の準備を進める。
6. 広報活動の充実
 - ・広報誌、ホームページを充実させて、本学の教育・研究内容などを社会にアピールする。
 - また、病診連携、病々連携、同窓会への情報発信に活用する。
7. 平成21年に大学基準協会の大学評価を受けるための申請準備を行う。
8. 青戸病院、第三病院、柏病院に DPC を導入する。
9. 青戸病院リニューアル計画の建築着工に関する基本事項を決定する。

I. 中期目標・中期計画期間

平成19年4月1日から平成25年3月31日までとする。

II. 「中期目標・中期計画・平成20年度事業計画」の項目

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成20年度事業計画
<p>I. 大学の教育・研究・診療等の質の向上に関する目標</p> <p>1. 教育に関する目標</p> <p>(1) 教育の成果に関する目標</p> <p>卒前教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 幅広く深い教養を身につけた医師・看護師・保健師を育成する。 エビデンスに基づいた医療判断ができる医師・看護師・保健師を育成する。 医学生の臨床能力の向上を図る。 研究的態度を身に付けた医師・看護師・保健師を育成する。 国際感覚をもった医師・看護師・保健師育成のために外国語教育を充実させる。 医師・看護師・保健師国家試験合格率の改善を図る。 学習効果を適切に評価する。 入学後の学習支援を行い大学教育が滞りなく行えるように配慮する。 卒前教育における大学間連携を推進する。 	<p>I. 大学の教育研究診療等の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>1. 教育に関する目標を達成するためにとるべき措置</p> <p>(1) 教育の成果に関する措置</p> <ol style="list-style-type: none"> ①教養教育のあり方を検討する。 ②医学科と看護学科で医療判断能力を涵養するカリキュラムを改善充実させる。 ③研究的態度を涵養するカリキュラムを改善充実させる。 ④低学年から臨床能力の向上に取り組む。 ⑤進級試験に国家試験を視野に入れるなどの改善を図る。 ⑥大学間連携を推進する。 	<p>学事課</p> <p>教学委員会</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①カリキュラムを点検・評価して、教養教育のあり方を検討する。 ②医学科と看護学科の共修可能な科目を見直す。 ③研究に関する授業の充実を検討する。 ④前臨床実習の拡充を検討する。 ⑤国家試験を視野に入れた試験の改善を図る。 <ul style="list-style-type: none"> ・試験の評価基準を見直す。 ⑥首都大学東京との連携を推進する。
<p>大学院教育</p> <ul style="list-style-type: none"> 臨床を支える研究を推進する。 社会に開かれた大学院となるように改善し、生涯学習の場を提供する。 高い倫理観と判断力に優れた研究者を育成する。 医学教育に優れた研究者を育成する。 臨床研究に優れた研究者を育成する。 研究者育成のためのカリキュラムを策定する。 看護実践を支える看護研究を推進する。 	<ol style="list-style-type: none"> ①豊富な症例を対象とした臨床研究を行うための基盤整備を行う。トランスレショナルリサーチを推進する環境を整備する。 ②社会人入学の振興を図る。 ③医学教育のカリキュラムの改善を図る。研究者に必要な倫理観、判断力を涵養するプログラムを策定する。 ④共通カリキュラムの改善を図る ⑤看護学修士課程における研究を充実させ質を高める。 	<p>学事課</p> <p>大学院委員会</p> <p>研究科委員会</p> <p>看護学修士課程設置準備室</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①臨床研究センターの検討を行う。 ②社会人入学制度を改善する。 ③医学教育のカリキュラムの内容を検討し、研究者育成教育を図る。 ④共通カリキュラムの内容を検討し、研究者の倫理、医学教育、研究費獲得などの講義を改善する。 ⑤看護学専攻修士課程開設に向けて準備する。
<p>(2) 教育内容等に関する目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 優れた人材の獲得に向けた医学科入学試験方法を改善する。 看護学科の志願者増を視野に入れ、入学試験を改善する。 カリキュラムの点検・評価を行い改善する。 問題解決能力涵養のための教育形態を策定する。 臨床能力を向上させるための方略を策定する。 質の高い医療人を育成するための厳正で適切な評価を行う。 国際交流を推進する。 卒業教育カリキュラムを改善し公開する。 	<p>(2) 教育内容等に関する措置</p> <ol style="list-style-type: none"> ①医学科・看護学科の入学試験を改善する。 ②看護学科の高校訪問、オープンキャンパスを積極的に行う。 ③モデル・コア・カリキュラムを考慮した医学科の特色あるカリキュラムを継続的に検討する。 ④看護学科のカリキュラムを点検し改善する。 ⑤講義、実習、演習の比率を改善する。 ⑥少人数教育体制の評価点検を行う。 ⑦臨床技能を高めるために実習方法を改善する。 ⑧多様な評価方法を取り入れる。 ⑨医学科の交換留学生制度を充実させる。 ⑩看護学科の海外実習を振興する。 ⑪レジデント教育プログラムを改善して公開する。 	<p>学事課</p> <p>教学委員会</p> <p>教員医師人事室</p>	<ol style="list-style-type: none"> ①入学試験で医師・看護師としての適正を評価できる方法を検討する。 ②看護学科の志願者を増やすために、広報活動を充実させる。 ③医学科カリキュラムを検討する。 ④看護学科カリキュラムの改善を図る。 ⑤講義、実習、演習の比率を検討する。 ⑥少人数教育の点検・評価を行う。総合試験システムを改善する。 ⑦臨床技能を高める実習を検討する。 ⑧多様な評価方法について検討する。 ⑨医学科の交換留学生制度を充実させる。 ⑩看護学科の海外実習プログラムを充実させる。 ⑪レジデント教育の目標とプログラムを策定し、ホームページに開示する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成20年度事業計画
(3) 教育の実施体制等に関する目標 ・教員の適正配置を検討する。 ・教育環境を整備する。 ・教員の教育能力の向上に努める。 ・教員評価を実施する。	(3) 教育の実施体制等に関する措置 ①教育・研究を考慮した教員の適正配置と教員数を検討する。 ②講義室などの教育環境整備を行う。 ③教育能力向上のための教育研修を実施する。 ④教員人事評価制度を運用し体系的な人事制度を構築する。	教員医師人事室 大学事務部 教員医師人事室	①教員医師人事室で教員の適切な人数を把握する。 ②学生会代表者と教学委員との懇談などを通して、アメニティの改善を図る。 ③Faculty Development を定期的で開催する。 ④生涯教育のための講演会を開催する。 ⑤教員評価システムを稼働させる。
(4) 学生への支援に関する目標 ・学生が充実した生活を送ることができるように支援する。 ・留年者に対して学力と精神面の支援を行う。	(4) 学生への支援に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①学年担当者の機能を充実させる。 ②奨学金制度を充実させる。 ③精神的支援を必要とする学生のためのシステムを構築する。	教学委員会 学生委員会 学事課	①学年担当教員制を改善する。 ②奨学金授与・貸与を改善する。 ③精神的支援組織を設置する。
(5) 看護専門学校に関する目標 ・看護専門学校の質の向上を図る。 ・定員数の学生を確保する。 ・適切な看護専門学校の配置を検討する。	(5) 看護専門学校に関する措置 ①適切な看護教員を確保する。 ②看護実践を重視した看護教育を行う。 ③学生確保のため積極的に広報活動を行う。 ④学生生活支援を積極的に行う。 ⑤看護専門学校の再編を検討し実行する。 再編に向けて4病院を活用した実習カリキュラムを検討する。	看護専門学校	①看護教員確保に必要な措置を講じる。 ②看護実践重視の教育を検討する。 ③高校訪問・オープンキャンパスを充実し、拡大する。 ④学習についていけない学生を支援し、また生活上の問題を支援する。 ⑤看護専門学校の再編計画を策定する。
2. 研究に関する目標 (1) 研究水準及び研究成果に関する目標 ・臨床を支える質の高い研究を振興する。 ・論文発表を促進する。 ・国際的に高い評価を受けることができる研究を推進する。	2. 研究に関する措置 (1) 研究水準及び研究成果に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①教員の職位に応じた論文発表を評価する。 ②国際誌への投稿を推進する。 ③Jikeikai Medical Journal のMEDLINE や Journal Citation Reports (インパクトファクター掲載) 等の国際的データベースへの収載を目指す。	教員医師人事室 大学院委員会 学術情報センター	①論文の発表数と内容を自己評価する。 大学院委員会の発表論文基準に照らして研究業績の評価を検討する。 ②国際誌への投稿推進策を策定する。 ③JMJ 掲載論文の質と量の充実を図る。
(2) 研究実施体制等の整備に関する目標 ・研究環境を整備する。 ・臨床研究を推進する体制を構築する。 ・先進的研究実施体制を作る。 ・寄付講座制度を活用する。 ・大学の研究費予算を見直す。 ・効率的な人員を配置する。	(2) 研究実施体制等の整備に関する措置 ①臨床研究支援体制を構築する。 ②先進研究を促進する体制を作る。 ③トランスレーショナル研究推進体制を作り振興する。 ④寄付講座を振興する。	先進医療研究推進委員会、iPS細胞研究会 学事課	①臨床研究センターを継続的に検討する。 ②先進医療研究推進委員会、iPS細胞研究会の活動を活性化する。 ③トランスレーショナル研究推進体制を策定する。 ④寄付講座を増やす。
(3) 総合医科学研究センターに関する目標 ・各研究所・研究室の活動を定期的に点検・評価する。 ・競争的研究資金の獲得を目指す。 ・各研究所・研究室の特色ある研究を推進する。 ・研究支援部門の充実を図る。	(3) 総合医科学研究センターに関する措置 ①大学の自己点検・評価を推進し外部評価を受ける。 ②研究成果を積極的に開示する。 ③それぞれの各研究所・研究室の特色ある研究を推進し、情報公開に努める。	総合医科学研究センター	①自己点検評価を実施し、公開する。 総合医科学研究センターの研究支援体制を充実させる。 ②研究所の合同研究発表会を開催する。 ③研究所の活動をHPなどを通して広報する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成20年度事業計画
(4) その他 ・医学・看護に関する情報を社会に公開する。	(4) その他の目標を達成するためにとるべき措置 ①知的財産を社会に還元するために市民公開講座を積極的に開催する。	公開講座推進委員会	①補助金を活用して市民公開講座を積極的に開催する。
3. 附属病院（4病院）に関する目標 (1) 医療安全の推進 ・医療安全体制を強化する。 ・4附属病院の連携を強化する。 ・全国の私立医科大学病院の医療安全推進に貢献する。	3. 附属病院（4病院）に関する目標を達成するためにとるべき措置 (1) 医療安全の推進を達成するためにとるべき措置 ①医療安全管理体制の点検・評価を実施する。 ②迅速対応体制を確立する。 ③私立医科大学病院間の相互ラウンドを実施する。	医療安全管理部	①システム工学の視点で医療安全管理体制を点検する。 ②迅速対応の規定、体制を整備する。 ③私立医科大学病院間の相互ラウンド制度を確立する。
(2) 先進医療の推進 ・患者ニーズに応える先進医療に取り組む。	(2) 先進医療の推進に関する措置 ①医療の質と技術向上のための取組みを推進する。	管理課	①低侵襲手術をはじめとした先進医療トレーニングシステムを構築する。
(3) 患者サービス・病診連携の推進 ・患者中心の医療を円滑に推進する。 ・患者支援のボランティアが参加しやすい受入れ体制をつくる。	(3) 患者サービス・病診連携の推進に関する措置 ①医療連携を進める具体的な体制整備を行う。（医師・看護師・SW等が協働できる体制） ②患者の受診サポート（紹介診療予約、医療案内など） ③退院・転院・在宅医療などの支援業務の一体化	患者支援・医療連携センター 管理課	①患者支援・医療連携センター等の協働体制を整備する ②患者をサポートするボランティアの受入れを積極的に行う。 ③退院・転院・在宅医療支援組織を設置する。
(4) 効率的な医療の推進 ・附属4病院で効率的なDPC運用を図る。 ・職種間の効率的な協働体制を構築する。 ・科学的根拠に基づく医療の効率化を推進する。	(4) 効率的な医療を推進するためにとるべき措置 ①DPCに対応したクリニカルパスを普及し、治療の標準化、医療の安全と効率化を図る。 ②医師、看護師、コメディカル、事務職の効率的な担当業務推進を図る。 ③4病院共通操作性のオーダリングシステム導入の検討	各業務課 クリパス委員会 薬剤部 企画部 人事課 システム課	①青戸病院、第三病院、柏病院へDPCを導入する。 ・DPCに対応したクリニカルパスの導入を推進する。 ・後発薬品導入を推進する。 ・外来疾病別原価分析を実施する。 ②担当業務、業務分担を見直す。 ③4病院のオーダリングシステム導入計画を策定する。
(5) 予防医学の推進 ・大学として予防医学に貢献する。 ・スポーツ・ウェルネスクリニックとスポーツ医学の再興を図る。	(5) 予防医学の推進を達成するためにとるべき措置 ①総合健診・予防医学センターと各病院との連携を強化する。 ②スポーツ・ウェルネスクリニックとスポーツ医学研究を見直す。	総合健診・予防医学センター 整形外科	①総合健診・予防医学センターと各病院との情報を共有し、円滑に診療へ移行させる。 ②一般を対象とした運動療法・栄養指導を実施する。 ・体力医学研究を推進する。
附属病院（本院）に関する目標 (1) 医療の質の向上を図る。	附属病院（本院）に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①特定機能病院としての機能を充実させる。 ②がん薬物療法の体制整備の充実を図る。 ③人材育成（スキルアップ）を行う。	運営会議 担当委員会 人事課	①特定機能病院としての機能充実策を策定し実施する。 ②レジメン登録を実施する。 ③教職員職種別キャリアパス作成を推進する。
(2) 先進（高度）医療を開発し、施行する。	①医療技術向上のための取組みを推進する。 ②鏡視下手術トレーニングコースの充実を図る。	教育センター	①ナビゲーションシステムを導入する。 ②鏡視下手術トレーニングコースを改善する。
(3) 医療安全管理体制の充実と推進を図る。	①医療安全に関する組織横断的な活動を推進する。 ②システム工学の視点で管理体制を点検する。	医療安全管理部	①医療安全に関する組織横断的な活動を計画的に実施する。 ②システム工学の視点で管理体制を構築する。
(4) 患者・家族の満足度の向上を図る。	①インフォームド・コンセントを徹底する。	管理課	①インフォームド・コンセント徹底の具体的な施策を実施する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成 20 年度 事業 計画
(5) 地域連携促進と極め細やかな医療サービスを提供する。	①患者支援・医療連携センターの機能充実を図る。	患者支援医療連携センター	①患者支援医療連携センターの機能を再整備する。
(6) 臨床研究を促進する。	①臨床試験の支援体制を充実させる。	臨床試験支援センター	①臨床試験支援センターの機能を拡大する。
(7) 効率的医療を推進する。	①オーダーリングシステム導入による効率的な運用を図る。 ②効率的な診療体制の構築を図る。 ③手術室の効率運用を図る。 ④救急患者受入れの体制整備を行う。	業務課 ICU 運営会議 手術部 中央材料室 救急部	①オーダーリングシステム 2 期を導入し、効率的な二次利用を行う。 ②ICU の増床により診療の効率化を図る。 ・一般点滴室を設置し診療の効率化を図る。 ③手術室の利用率管理を徹底する。 ・中央材料室業務の効率化を図る。 ④救急患者受入れ増加のための体制を整備する。
(8) コスト管理の強化と収益性の向上を図る。	①月次医療収支額を把握する。 ②DPC データの他大学とのベンチマークを実施する。 ③医療材料の SPD 業務の再編を行う。	事務部 企画部 財務部	①医療収益の月次報告を実施する。 ②都内数大学と DPC データのベンチマークを実施し分析する。 ③SPD を再検証し安定稼動を図る。
(9) 法令遵守の徹底を図る。	①施設基準等の定期点検を行う。 ②慣例的に行っている業務手順を法令遵守の視点で見直す。	事務部 管理課	①全ての施設基準を点検し改善する。 ②慣例的業務手順を法令視点から見直し、順次実施する。
(10) 個人情報管理を徹底する。	①学内個人情報管理規程を遵守する。 ②電子媒体による情報管理を徹底する。	個人情報保護委員会	①定期的な研修会を実施し、個人情報管理を徹底する。 ②電子媒体の管理により情報を把握し、紙媒体の情報離散を減少させる
(11) 情報公開の条件を整備する。	①診療情報を評価するシステムを構築する。	管理課	①診療情報評価システムを検討する。
(12) 教職員の職場満足度を向上させる。	①働きやすい環境整備等を行う。 ②女性教職員・女性医師の復職を支援する。 ③職種間の業務分担を見直す。	管理課 教員医師 人事室 人事課 医療管理室	①働きやすい職場環境を整備する。 ②女性医師の育児可能勤務体系を整備する。 ③職種ごとに担当する業務内容を見直し、業務分担を再構築する。
青戸病院に関する目標 (1) 管理運営を強化する。	青戸病院に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①開かれた組織体制を構築する。 ②迅速な意思決定が出来るように組織を強化する。 ③各運営委員会を活性化し、病院長の諮問機関としての役割を強化する。	運営会議 BSCWG リニュー アル TF	①青戸病院 BSC を通じ目標、戦略を明確にする。 ②病院組織を再整備し、統治権限を明確にする。 ③運営委員会を活性化するため、役割を見直し、再編成する。
(2) 財政基盤を磐石にする。	①十分な内部留保ができるよう経営の安定化を図る。 ②発生主義に基づく予算管理、収益性分析、生産性分析による経営課題を解決できるシステムを構築する。 ③医療材料コストを見直す。	運営企画会 事務部	①病院予算を確実に達成する。 ・付加価値予算を試行する。 ②収益性分析を実施する。 生産性分析を実施する。 ③SPD 業者を見直し、医療材料コストを把握する

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成20年度事業計画
(3) オープン・システムを構築する。	①附属4病院連携、地区医師会、連携医療施設、行政とのネットワーク整備をする。 ②学内連携を図ることによって診療、教育体制を強化するとともに、教育研修制度を整備する。 ③東京都看護職員復職支援研修施設として対象者を受け入れる。	運営会議 ・リニューアルTF ・看護部	①登録医制度を構築する。 ・地域連携バスを導入する。 ・区東北部糖尿病医療連携協議会を充実(継続)させる。 ②メディカルカンファレンスを一層充実(継続)させる。 ③看護師再教育制度の運用を開始する。
(4) 診療体制及び重点機能を強化する。	①総合内科・救急医療の協働体制を確立し、患者受入れ体制を強化する。(総合内科病棟を設ける。) ②手術室の物流を改善し効率運用を図ることによって手術数を増加させる。 ③医療の効率化、透明化、標準化を図る。 ④入退院管理センターを中心にサービス部門を整備する。	運営会議 運営委員会	①総合内科・救急部を開設する。 ②オペラマスターを導入し、物流全体を改善する。 ③DPC導入(7月)に合わせクリパスの導入拡大等医療の効率化、標準化を図る。 ④ペイシエント・フロー・マネジメントを拡大し、一体的な総合案内、コンサルジェ、相談(在宅・福祉・栄養・薬)、医療連携を実施する。
(5) 病院リニューアルを実施する。	①大学病院、地域中核病院として患者志向の機能的な病院を建築する。(平成23年竣工を目指す。)	リニューアル委員会・TF	①新病院建築準備室を設置する。 ・基本設計を完了し、設計施工業者の選定、実施設計を概ね完了する。 ・行政折衝、住民説明会を滞りなく行う。
第三病院に関する目標	第三病院に関する目標を達成するためにとるべき措置		
(1) 信頼される地域中核病院になる。	①診療に関する情報を公開する。 ②外部評価を受ける。 ③地域住民や行政への医療啓蒙行事をさらに充実させる。 ④患者に対する対応を見直し改善を図り、積極的に患者を受入れる。	業務課 業務課 管理課 運営会議	①診療科研究業績、診療成績を開示する。 ・各診療科BSCを作成する。 ②病院機能評価を受審する。 ③各種イベント、市民公開講座等を開催する。 ④救急、(中央)診療部門の患者対応を見直す。
(2) 財政基盤を磐石にする。	①医療材料コストを見直す。	管理課	①SPD業者を見直し、医療材料コストを把握する。
(3) 優秀な人材を確保する。	①診療部を評価する。 ②院内研修制度の充実を図る。	管理課	①学術・診療・運営に関する院内評価を行う。 ②「第三病院家庭医・再研修コース」を開設し、学内公募を開始する。
(4) 特色ある医療を強化する。	①森田療法センターを本学の特色ある医療として内外に強く再アピールする。	管理課	①ホームページを充実し森田療法センター、特色ある診療科を積極的に紹介する。
(5) 信頼関係に基づいた病診・病病連携を実践する。	①病診連携、病病連携のための強化を図る。	業務課 管理課	①連携バスの運用と登録医オープン・システムを拡大する。 ・診療科横断的な高齢者医療勉強会の開催、医師会・行政との高齢者医療に関する意見交換会を開催する。
(6) 「お年寄りにも優しい病院」を目指す。	①高齢者に対する対応策を検討する。	運営会議	①療養病床のあり方の検討をすすめる。
(7) 癒しの病院環境を醸成する。	①施設改修による療養・職場環境改善を持続的に実践する。 ②入院患者向け行事を開催する。	管理課	①病棟、病室の整備工事、トイレ棟の立案により環境を改善する。 ②各種「癒しの行事」を継続開催する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成20年度事業計画
柏病院に関する目標 (1) DPC 導入に向けて準備する。	柏病院に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①包括化による減収を回避する。 ②DPC 導入に合わせ医療の効率化、標準化による安全を確保する。	DPC 導入 TF クリパス委員会 業務課	①DPC 導入（7月）に合わせクリパスの導入拡大等医療の効率化、標準化を図る。 ②DPC データを用いて院内ベンチマーク分析を実施する。
(2) がん診療連携拠点病院として必要な高い診療機能を整備する。	①がん診療連携拠点病院として必要な施設を整備する。 ②がん診療連携拠点病院として必要な地域連携を整備する。	地域がん診療連携拠点病院運営委員会	①外来化学療法室と病棟で行っている化学療法を外来部門に集約する。 ②地域連携クリニカルパスを構築する。 ③がん相談および緩和ケアチームの体制を整備し、機能の充実を図る。 ④ がんセンター東病院と連携を密にとりながら、患者・家族、地域医療機関への情報提供および教育活動を行う。
(3) 手術件数を増加させるとともに、手術増加に対応できるシステムを構築する。	①手術件数増加に伴う対応策を検討し、救急受入れの困難を回避する。	手術部 管理課	①手術室の増室、小手術室の拡張、ICU・CCU の拡張改修工事を実施する。 ・手術件数増加に伴う物流（SPD）の再編を行う。
(4) 病院機能を充実させる。	①地域（柏市）が求める外来、入院機能の拡充、高度化を検討する。	将来構想検討委員会 PACS 設置準備委員会	①将来構想検討委員会を設置し、メディカルセンター化構想を検討する。 ・フィルムレスによるコスト削減、保管スペース・搬送等の業務軽減を図るため PACS/RIS システム導入を検討する。 ・歯科外来設置の必要性を検討する。 ・患者アメニティ向上を検討する。
(5) 電子カルテの導入を検討する。	①導入によるメリット、デメリットを検討する。	システム課	①導入に向けた研究組織を設置する。
II. 業務運営の改善及び効率化に関する目標 1. 運営体制の改善に関する目標 ・理事会機能の強化を図る。 ・法令遵守の徹底を図る。 ・広報活動を充実する。 ・法人運営の総合的計画立案機能を強化する。 ・環境問題に配慮した管理・運営を行う。	II. 業務運営の改善及び効率化に関する措置 1. 運営体制の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①理事会の構成、運営組織を見直す。 ②慈恵大学行動憲章・行動規範を徹底する。 ③内部監査を実施（補助金・業務）する。 ④個人情報保護の継続的注意を喚起する。 ⑤本学の情報（社会貢献、研究成果、医療貢献）を学内外に発信する。 ⑥有事の際の広報体制確立と情報統制を確立する。 ⑦事業計画を確実に実施する。 ⑧BSC を普及拡大し、目標と進捗を把握、評価する。	人事課 監査室 個人情報保護委員会 広報課 企画部	①法人運営を効率的に進める組織体制を検討する。 ②慈恵大学行動憲章・行動規範の周知プログラムを作成し研修実施する。 ③補助金監査、業務監査、事業計画の進捗および実施結果を監査する。 ④個人情報保護研修会を実施する。 ⑤情報収集と広報手続き運用方法の仕組みを確立する。 ・同窓への情報発信方法を策定する。 ⑥各機関に亘る情報管理体制を確立する。 ⑦事業計画を各部署の BSC（業務目標）に反映させる。 ⑧各部門への BSC を普及拡大させる。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成 20 年度 事業 計画
2. 人材活用に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> 人材育成のための教育制度を構築する。 業務の効率化を図り人件費を抑制する。 	2. 人材活用に関する措置 <ol style="list-style-type: none"> ①職員の人材育成制度を強化する。 ②人事評価システムの充実させる。 ③業務の見直し、配置人員の見直し、業務の効率化と人件費抑制を図る。 ④教職員の定着率を高める。 ⑤青戸看護専門学校閉校後に対応する看護師確保体制を確立する。 	人事課 教員医師 人事室 システム課 教員医師 人事室 人事課 企画部 人事課	<ol style="list-style-type: none"> ①管理職員人材育成システムを策定する。 ②教員評価システム運用と利用を検討する。 ③IT、業務改善、アウトソーシングによる人員計画を策定する。 ④教職員自己評価アンケートを実施する。 ⑤青戸看護専門学校閉校後の看護師確保対策を検討する。
3. 事務の効率化・合理化に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> IT 導入による効率化を実現する。 	3. 事務の効率化・合理化に関する目標を達成するためにとるべき措置 <ol style="list-style-type: none"> ①適正な IT グランドデザインを構築し、IT 戦略を策定する。 ②附属 4 病院にオーダリングシステムを導入し、効率化と患者満足度の向上を図る。 ③附属 4 病院にオンライン請求システムを導入する。 ④ネットワークの更新と再構築を行う。 	システム課	<ol style="list-style-type: none"> ①IT グランドデザインを策定し、IT 戦略を再構築する。 ②附属病院オーダリングシステム（二次）を確実に導入する。 ③附属 4 病院オンライン請求システムを導入する。 ④効率的、経済的なネットワークシステムに更新する。
Ⅲ. 財務の改善に関する目標 1. 収支改善、外部資金獲得に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> 安定した経営基盤を確立する。 機動的な小グループ（タスク・フォース）の取組みにより経営改善を推進する。 青戸病院、第三病院の収支構造を改善する。 科学研究費補助金・経常費補助金の獲得・増加に努める。 	Ⅲ. 財務の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 1. 収支改善、外部資金獲得に関する目標を達成するためにとるべき措置 <ol style="list-style-type: none"> ①予算実績管理体制を強化して効率的な運用推進の仕組みを策定する。 ②経営改善重要項目ごとに検討組織を設置し改善を推進する。 ③科学的な分析に基づく医療収支の改善を推進する。 	経理課 各業務課 経理課 青戸病院 第三病院 研究支援課 各業務課 企画部	<ol style="list-style-type: none"> ①財務委員会を設置して財務計画の策定、およびその検証を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・機関別の中期財務計画を策定する。 ・収支状況の月次把握システムを作成する。 ・レセプト未請求と患者未集金を把握し改善する。 ②青戸病院と第三病院の収支構造を改善するために、あり方検討とマスタープランを作成する。 <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費補助金他獲得のため補助金対象調査を実施し申請の徹底を図る。 ③疾病別の医療収入及び原価率を把握し、改善を推進する。
2. 経費の抑制に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> 物流の効率化、一括購入により経費を抑制する。 各種資源の消費を削減する。 IT 関連経費の適正化を図る。 	2. 経費の抑制に関する目標を達成するためにとるべき措置 <ol style="list-style-type: none"> ①物流の見直し、購入組織の見直し、個別、疾病別の医療材料費を把握することにより改善を推進する。 ②エコ活動を推進し、電気・ガス・水道・重油・電話・コピー・酸素等の経費削減を図るための具体策を実行する。 ③IT グランドデザインに基づく IT 投資計画、包括的な IT 関連経費の適正化を推進する。 	財務部	<ol style="list-style-type: none"> ①物流全般を慈恵実業に集約し一括購入、物流効率化で経費を削減する。 <ul style="list-style-type: none"> ・遅滞なく SPD 業者を変更する。柏病院は変更を検討する。 ②電気・ガス・水道・重油・電話・コピー・酸素等の経費削減を検討する。 ③中期的な IT グランドデザインの策定、IT 関連経費の統合・廃止による削減、価格見直しを実施する。
3. 資産の運用管理の改善に関する目標 <ul style="list-style-type: none"> 全学的かつ経営的視野に立った資産の効率的な運用を図る。 	3. 資産の運用管理の改善に関する目標を達成するためにとるべき措置 <ol style="list-style-type: none"> ①施設・設備の効率的な維持管理と計画的整備を図る。 ②機器・備品の効率的な管理、投資計画を策定する。 	施設課 財務部	<ol style="list-style-type: none"> ①施設・設備計画を策定する組織を設置し、効率的な維持管理を実施する。 ②慈恵実業と協働で機器・備品のシステムを再構築する。

中 期 目 標	中 期 計 画	主体部署	平成20年度事業計画
IV. 自己点検・評価の充実に関する目標 ・点検・評価結果を公表し、改善につなげる。	IV. 自己点検・評価の充実に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①自己点検・評価を公表し、運営（中期目標・計画、支援、設備整備等）に関わる検討組織の審議に反映できるシステムを構築、運営する。	総務課 大学事務部、企画部	①前回の結果を公表する。 ・平成21年に大学基準協会の評価を受けるための申請書類を作成する。
V. その他事業運営に関する重要目標 1. 青戸病院リニューアルに関する目標 ・基本方針・基本コンセプトに基づく新病院を開設する。	V. その他事業運営に関する重要目標を達成するためにとるべき措置 1. 青戸病院リニューアルに関する目標を達成するためにとるべき措置 ①青戸病院TFを設置し、リニューアル計画を推進する。 ②青戸病院リニューアル委員会を設置し、リニューアルTFと連携し、基本事項決定および行政折衝等を推進する。	青戸リニューアルTF 青戸病院リニューアル委員会	①基本設計、実施設計までの詳細を検討する。 ・開発許可・総合設計許可・建築確認までの周辺折衝を行い、許可を得る。 ②建築着工までの基本事項を審議決定する。
2. 附属病院外来棟建築に関する目標 ・本院外来棟の建築 （着工：平成24年度目標）	2. 附属病院外来棟建築に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①西新橋キャンパス全体を視野に入れ建築計画を策定する。 ②附属病院の機能分化と西新橋キャンパスの有効利用を考慮した外来棟の基本コンセプトを策定する。	マスタープラン検討委員会	①本院外来棟の建築スケジュール、プロジェクトプランを検討する。 ②本院機能、分院機能、西新橋キャンパスでの教育研究機能も考慮し、本院外来棟の基本コンセプトを検討する。
3. 大学マスタープランの策定に関する目標 ・明確な長期マスタープランを策定する。	3. 大学マスタープランの策定に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①教育・研究・診療機能を総合的に考慮したマスタープランを策定する。	マスタープラン検討委員会	①マスタープラン検討委員会活動を推進する。 ・西新橋キャンパスの教育・研究・診療機能を検討し、マスタープランの概要を策定する。
4. 創立130年記念事業に関する目標 ・事業実現に必要な寄付金を確保する。	4. 創立130年記念事業に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①記念事業に必要な寄付金を募集する。	120周年募金事務局	①寄付金額の目標、実施計画を策定する。
5. 大規模災害時の対応に関する目標 ・大規模災害発生時の危機管理体制を構築する。	5. 大規模災害時の対応に関する目標を達成するためにとるべき措置 ①大規模災害発生時の4機関連携体制対策指針を整備する。	総務課	①マニュアルに基づく4機関合同訓練を実施し、災害発生時の体制を強化する。